

緒言

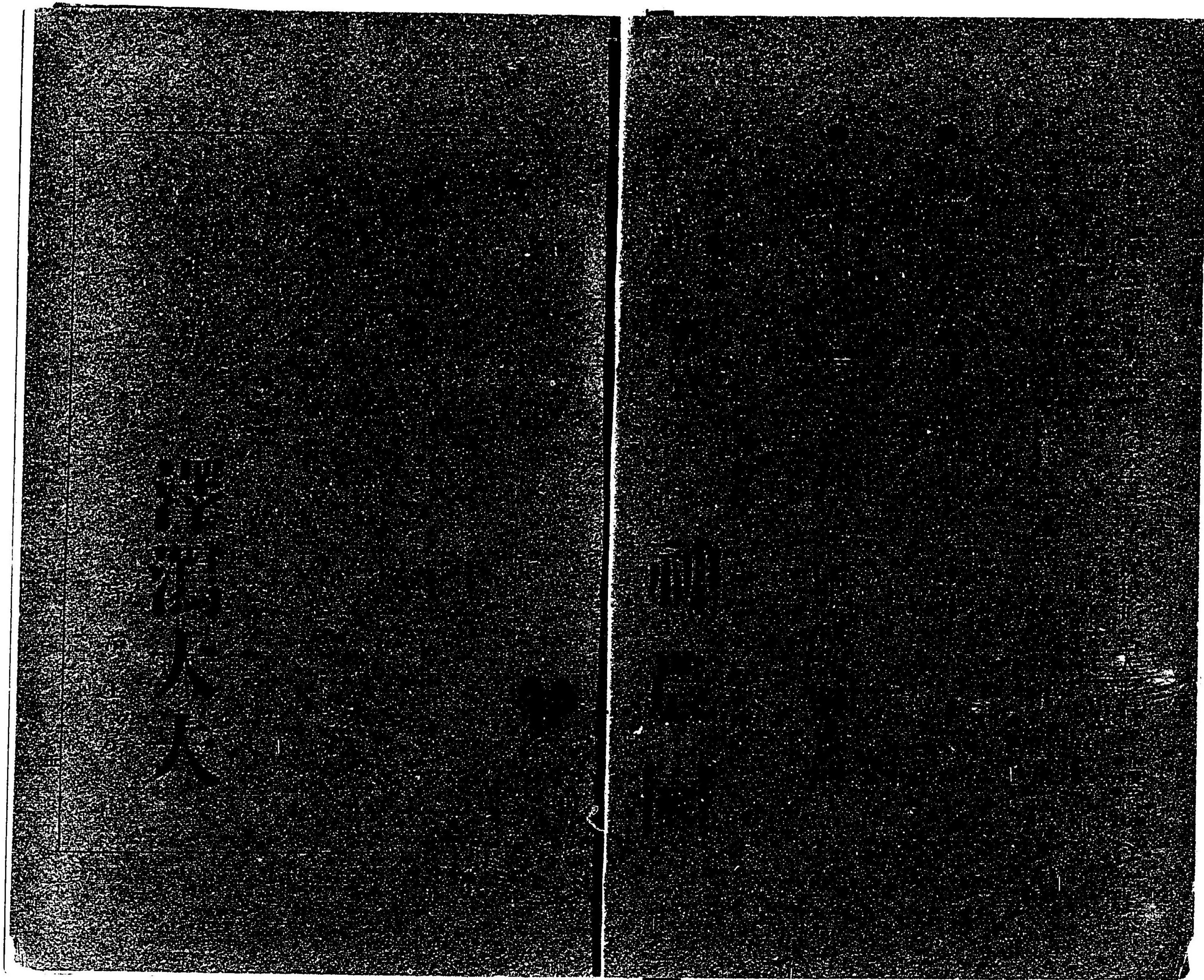
我伊勢の國たる。天照大神の鎮座し玉ふ所にして。天下億兆の尊崇敬拜する所以のもの故なきに非らず。加之山河の秀靈を萃め千歳の風致。以て内外人の遊覽に供す可きもの頗る夥多にして。特に世上の注目する所たるや既に久し。吾人は神都に在て恩恵に沐浴すること此に年あり。造次顛沛の間と雖も神威を發揚し玉道を顯彰するの道を講せざるはなし。是れ獨り吾人のみならず。苟も我國民たる者は奮て大に協同一致の實を擧げ神都の爲に竭す處なかる可からざるなり。

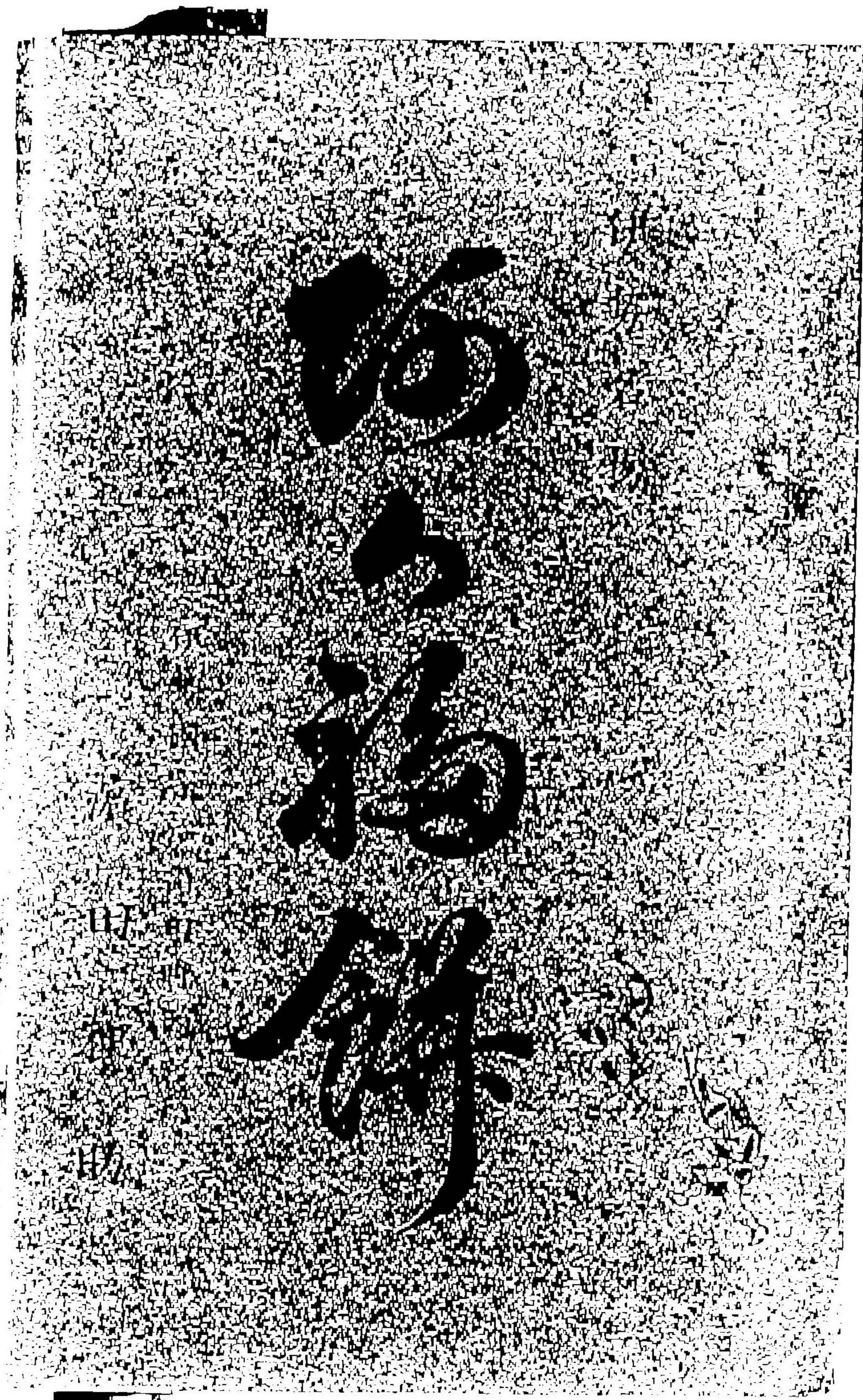
願ふに交通機關の設備も亦た其緒に就きたるを以て兩宮參拜者に便宜を與ふる鮮少ならずと雖も。今日以後の神都は世界的神都たるか故に總て之れに相當す可き準備なきを得ず。否な地球各邦を待つの用意なかる可からず。然らば則ち。從來の如き小規模に姑息し袖手傍觀し去て内外人の廣集し來るものは全く兩宮の神靈を欽仰敬崇するより然るものなれば。別に其他に掛念するの要なしと信ずるは。蓋し我同臣民の情にあらざるなり。決して兩宮の神威神徳を顯彰するの道に非らざるなり。此に於て。吾人は更らに至誠を擢挿し大に面目を一新し。設備を充實にし。純粹的眞美を發輝し。神廟の隆んなる愈よ其大を致すの目的を研究せずんばある可からず。

夫れ王道蕩々として。洽く内外に光被し至らざる所なし。故に苟も遠く來りて兩宮を參拜する

者は一層欽敬の念を増し。山河の秀靈に喫驚せざる輩はなかるべし。是れ他なし。國を建つる已に舊く萬世不易の丕業と相俟て毫も優劣なきに由らずんばならず。此の秋に方り。萬國無比の國体の下に生し。神都に在て親しく皇恩に薰沐する吾人たる者。益々及ふ可き限り規模を整備し。博く内外人を感孚せしむる覺悟に盡瘁す可し。然るに今や交通的機關の施設。粗不見へきか如しと雖も。廣白的手段甚だ幼稚にして充分ならず。爲めに。交通の開くと同一なる成跡を呈する能はざるは已に識者の記憶する所たるべし。是れ豈に歎すべきの極にあらずして何ぞや「吾人竊に「以爲らく方今の急たる先つ以て廣告的機關を整備し實業家を指導するより外なかるべし」と意を決し自ら掃らす「神の宮居」を發行し深く所信を一貫するに至れり。此の如き理由より今日の着手を促されたるものなるか故に。普く廣告的實用の爲めに盡力するのみならず。更に奮て進路を開拓し。大に刷新の名實を擧げるに銳意なれば。内部に存する。一大弊害は斷乎として改善せしむ可く。若し及ばざれば極力天下に訴へて。不正不義を暴露し。深く懲戒せしむることを期す。敢て非言を陳て緒言と爲す」

編者識す





祝文

正五位男爵 澤田泰因

こたび内野ぬし「神の宮居」と呼べる、いとも床しき雑誌を發行せらる、記載の種目に付ては、神宮の事は勿論、神都の利益となるべき件は、細大ともに擧らるゝとの由なれば、洵に此上なき美擧たるは言明ことまけするまでもなし、是れ結局報本反始の主意にも適するものにしあれば、いやが上にもいよく、益す御稜威の隆なるを、内外人に知らしむるに至らんことを期して待つべし、欣喜のあまり、祝文をものしつ、

神の宮居てふ雑誌の發行を祝して社主内野氏にねくる

從四位男爵 松木美彦

神の宮居に、すめ神の、みいつをたかくか、けなは、千とせ萬代さかゆへき、内外の宮の松杉も、猶も色をや、まじぬらむ、



文

正五位男爵 澤田泰因

こたび内野め「神の宮居」と呼べる。いとも床しき雑誌を發行せらる。記載の種目に付ては、神宮の事は勿論、神都の利益となるべき件は、細大ともこまごまに擧らるゝとの由なれば、洵に此上なき美譽たるは言明するまでもなし、是れ結局報本反始の主意にも適するものにしあれば、いやが上にもいよく、益々御赫威の隆なるを、内外人に知らしむるに至らんことを期して待つべし、欣喜のあまり、祝文をものしつ。

神の宮居てふ雑誌の發行を祝して社主内野氏にたくる

從四位男爵 松木美彦

神の宮居に、すめ神の、みいつをたかくか、けなは、千とせ萬代さかゆへき、内外の宮の松杉も、猶も色をや、まじぬらむ。

外宮

祭神

豐受大神

相殿神

御伴神三座

宮

伊雜宮

志摩國磯部大字上ノ郷ニ座セリ皇大神ノ遙宮

瀧原宮

共ニ度會郡瀧原村大字野後ニ座セリ神殿ニ宇相並ベリ皇大神宮ノ遙宮ナリ

瀧原並宮

外宮域内本宮南面ノ山上ニ座セリ豐受大神ノ荒魂ヲ祭リ奉ル

多賀宮

多賀宮ノ石礎ヲ下リテ左方ニ座セリ大土御祖神ヲ祭リ奉ル

土宮

多賀宮ノ石礎ヲ下リテ右方ニ座セリ祭神ハ内宮ノ風日祈宮ト同一ナリ

風宮

外宮ノ北御門口ヲ出テ、北方大字宮後町ニ座セリ月讀神及ヒ其荒魂ヲ祭リ奉ル

月夜見宮

外宮ノ北御門口ヲ出テ、北方大字宮後町ニ座セリ月讀神及ヒ其荒魂ヲ祭リ奉ル

中年

歲旦大御饌

一月元始祭大御饌(一月)紀元節大御饌(二月)祈年祭(大御饌二月四日)奉幣二月十七日

風日祈祭貳回

五月十五日(八月四日)神御衣祭貳回(五月十四日)興玉神祭參回(六月十五日)御

御祭典

ト參回(六月十月十二)月次祭貳回(夕大御饌六月十二月各十六日朝大御饌六月十二月各十七日奉幣六月十二月各十七日外宮ハ總テ是ヨリ前ナリ)神嘗祭(夕大御饌十月十六日朝大御饌十月十七日奉幣十月十七日)外宮ハ總テ是ヨリ前ナリ)大御饌十一月廿三日(大祓八回)一月四月五月六月九月十月十一月十二月各末日

但シ外宮ニハ、日毎ニ朝夕ノ御饌アリテ、神御衣祭興玉神祭御トナシ

内院略解

板垣鳥居

荒垣又ハ板垣御門ト稱ス第五重ノ御門ナリ

宿衛屋

神宮ノ晝夜宿直スル所ナリ

外玉垣御門

俗ニ十二所御門ト稱ス普通參拜者ハ此御門前ニテ拜ス

中重鳥居

俗ニ第四ノ鳥居ト稱ス此鳥居ノ左右ニ石壺アリ祭典ノ節勅使掌典等ハ東方ノ石壺ニ座シ祭主宮司禰宜等ハ西方ノ石壺ニ座ス

四丈殿

官幣ヲ點檢スル所ナリ又祭典ニ雨天ノ節ハ石壺ノ座位并ニ祭文ノ讀進ヲ此ニテ行ハル往古ハ齋王候殿ト稱セシ所ナリ

蕃垣御門

俗ニ猿頭御門ト稱ス御門ノミニテ御垣モ御扉モナシ

内玉垣御門

祭典ノ節勅使以下ノ一行此ノ御門下ニテ玉串ヲ奉ラル、故ニ玉串御門トモ稱ス

瑞垣御門 正殿ヨリ第一重目ノ瑞垣ニ付キタル御門ナリ

東西寶殿 東寶殿ニハ幣物ヲ納メ、西寶殿ニハ幣馬鞍并ニ古神寶等ヲ納メラル

正殿 殿制ハ南面ニシテ、萱葺堀立柱ナリ、屋上ノ兩端ニテ北ニ斜出スル木アリ、之ヲ樽風ト云フ、又棟上ニ並列シタル短木アリ、鯉木ト云フ、其他總テノ結構太古淳朴ノ感ヲ存ス

外幣殿 東宮並ニ皇后宮ノ幣帛、其他諸國ノ調、荷前、雜物等ヲ納メラル

以上内院ノ規模構制ハ兩宮ニ通シテ異ナル所ナシ而シテ此圖ニ於テ外幣殿ヲ内宮ノ部ニ見サルハ其位置全ク板垣ノ外ニ在ルヲ以テナリ獨リ御饌殿ニ至リテハ古儀ニ基キテ外宮ニノミ之ヲ置カレ兩宮朝夕ノ御饌ヲ此ノ殿ニテ供進セラル、例ナリ

去ル明治二十二年ニ行ハレシ正遷宮ニハ古今未曾有ノ盛舉ニシテ宮、國庫金ニ拾萬圓ヲ出シテ其費用ニ供シタルノミナラス特ニ造神宮使廳ヲ置キテ專ラ管理セシメラレタリ

附屬殿舎

内宮ノ部 (宮城段別六拾七町參拾參畝并七步余)

表見張所 神宮衛士ノ見張ヲナシ、一時間毎ニ、交代シテ、晝夜ヲ警戒スル所ナリ

第一鳥居 維新前マデハ是ヨリ内へ、兵杖佛具ヲ携へ、又ハ木履ヲ穿テ、參入スルコトヲ禁セラレタリ

行在所 行在所ハ行幸啓ノ時休泊御ニ充テラル、所ナリ、昨三十三年九月中建築落成シタルモノナリ

祭主參籠所 祭主ノ參籠セラル、所ナリ去ル三十一年五月中火災ニ罹リシヲ以テ行在所ト同シク建築落成シタルモノナリ

參集所 祭典ノ節神官ノ齊宿スル所ナリ、去ル三十一年五月中火災ニ罹リシヲ以テ、昨三十三年九月中旬建築落成シタルモノナリ

神宮司廳 兩宮ノ神務ヲ執行セラル、所ナリシガ、去ル三十一年五月中火災ニ罹リ、現今ハ祭主官舎ニテ其事ヲ取扱ハル

手水場 五十鈴川岸ニアリ、參拜ノ衆庶ハ、河水ヲ掬シテ盥嗽サ此處ニ行フ

第二鳥居 官幣并ニ勅使以下ノ一行ニハ、神官出テ、大麻御鹽ノ式ヲ行ヒ、之ヲ淨ムル所ナリ、皇族モ此所ニテ下馬下乘セラル

神樂殿附屬舎 明治六年、説教場トシテ創設シ、時雍館ト稱シ所ナリ神官撤下ノ御寶ヲ陳列セラル

大麻授與所 御祓大麻及ヒ曆本、神符等ヲ授與スル所ナリ

神樂殿 衆庶ノ志願ニヨリテ、神樂ヲ奉奏シ、御饌ヲ供進セラル、所ナリ

五丈殿

〔雨天ノ際、祭典ニ用ヒラル、所ナリ、又饗膳ノ式アル時モ、此殿ヲ用ヒラルト云フ〕

御酒殿

神酒ヲ醸ス所ナリ

由貴御倉

〔往古神戶等ヨリ供進ノ御贄菓子御酒等ヲ納メ置カレタル儀式ニ基キテ存置セラル、御倉ナリ〕

忌火屋殿

祭典ノ時、御饌、御贄ヲ調理スル所ナリ

御竈木屋

御薪ヲ納ムル所ナリ

御贄調舎

豊受大神ノ御座ヲ設ケ、其御前ニテ、祭典ノ御贄ヲ調理スル所ナリ

御稻御倉

御常供田ヨリ刈取リタル御稻ヲ納ムル所ナリ

御廐

御馬ヲ飼養セラル、所ニシテ、内、外、中ノ三個所アリ

裏見張所

表見張所ト同ジク、神宮衛士ノ見張ヲナス所ナリ

外宮ノ部

〔宮域段別八拾七町七段拾四步余〕

表見張所

神宮衛士ノ見張所ヲナスコト、内宮ノ如シ

第一鳥居

〔維新前マデハ、是ヨリ内へ、兵、杖、佛具ヲ携へ、又ハ木履ヲ穿テ參入ヲ禁セラレタルコト、内宮ト同ジ〕

參集所

祭典ノ節神官ノ齊宿スル所ナリ

行在所

行幸啓ノ時、休泊等ニ充テラル所ナリ

第二鳥居

〔官幣並ニ勅使以下ノ一行ニ對シ、神官出テ、大麻御鹽ノ式ヲ行ヒ、之ヲ淨ムル所ナリ、皇族モ此所ニテ下馬下乗セラル〕

神樂殿

衆庶ノ志願ニヨリテ、神樂ヲ奉奏シ、御饌ヲ供進セラル、所ナリ

大麻授與所

御祓大麻、及ヒ曆本、神符等ヲ授與セラル、所ナリ

九丈殿

四至ノ神、並ニ攝末社等ニ御饌ヲ供セラル、所ナリ

五丈殿

雨天ノ際、祭典ニ用ヒラル、所ナリ、又饗膳ノ式アル時ハ、此殿ヲ用ヒラル

手氷場

參拜衆庶ノ盥嗽ニ供スル爲メ、下樋ヲ以テ溪水ヲ導ケル一大石盤ナリ

内御廐

御馬ヲ飼養セラル、所ナリ

忌火屋殿

忌火ヲ釀リテ、朝夕並ニ諸祭典ノ御饌、御贄ヲ調理スル所ナリ

御酒殿

神酒ヲ醸ス所ナリ

御竈木屋

忌火屋殿ニ用ヒル御薪ヲ納ムル所ナリ

北御門口鳥居

北御門口ノ參道ニ建テリ、俗ニ北ノ鳥居ト云フ

外 御 殿 御馬ヲ飼置カレ、所ナリ、幣帛ノ御馬隠ス御殿ト云フハ是ナリ
裏 見 張 所 表見張所ト同シク、衛士ノ見張チナス所ナリ

○ 内宮神苑

内宮神苑ハ、五十川ニ沿ヒ、宇治橋以内、宮域以外ニシテ、道ノ右傍ニハ征清ノ役得ル所ノ、清國
劉公島砲壘ニアリシ、二十四珊知米突加農砲(我軍ヨリ射撃セシ砲彈ノ痕アルモノ)及ヒ彈丸二
個アリ、第二軍司令官大山大將ノ奉納スル所、其左傍ニハ同清國機器局製造クルツプ式大砲及擡
槍銃アリ、第一軍司令官野津大將ノ奉納スル所ナリ、苑地面積貳町五段壹畝歩餘トス

○ 外宮神苑

外宮神苑ハ、西南ハ宮域ニ沿ヘリ、道ノ右傍ニハ征清ノ役得ル所、クルツプ式九珊知米突野砲及
七彈丸貳個アリ、是又第二軍司令官大山大將ノ奉納、其左傍ニハ、同式六珊知米突砲及ヒ擡槍銃
アリ、第一軍司令官野津大將ノ奉納スル所ナリ、苑地面積貳町五段壹畝歩餘トス
兩苑地ニハ 皇太子殿下御手植ノ松アリ、其他、樹木泉石、大ニ風致ヲ添ヒ、四時ノ風光頗ル觀ル
可キモノアリ、參拜ノ士民此間ヲ散步スレバ特ニ瞻仰ノ念ヲ増スノミナラズ、大ニ旅情ヲ慰ム可
シ苑地ハ去ル明治二十二年九月ノ成功ニシテ東京ヨリ園藝家小澤圭次郎氏ヲ招キ、圖案ヲ立テ

、經營セシモノニテ、神苑會ノ最モ注意ヲ要セシ所トス

○ 別宮二所(其一) 伊雜宮

志摩國磯部村大字上之郷ニ座セリ、此宮所ハ、倭姫命、御巡行ノ舊蹟ニシテ、皇大神ノ遙宮ナリ、
俗ニ磯部ノ宮ト云フ、内宮神苑ヨリ、道標ヲ目的トシテ朝熊山ノ麓ヲ登リ、更ニ磯部道ノ標ニ從
フテ進ムベシ、里程五里、大字上之郷ニハ旅宿茶亭等アリ、此宮ヲ距ルコト五町許ニ、佐美長神社
アリ俗ニ大歲社又ハ穗落社トモ云ヘリ

○(其二)瀧原宮 瀧原並宮

度會郡瀧原村大字野後ニ座セリ、此地ハ宮川ノ上流ヲ擁シ、多氣郡ニ接シテ山峯重疊セリ宮域ハ
老樹鬱蒼トシテ天日ヲ蔽ヒ、自ラ千古ノ神境ヲナセリ、垂仁天皇ノ御世、五十鈴川上ニ先チテ、
皇大神暫ク此地ニ鎮リ座セリ、亦皇大神ノ遙宮ナリ、參宮鐵道相可驛ヨリ里程七里トス、宮ノ
近傍ニ旅店アリ

業 務

◎最新式木造船製造及修繕

大湊造船所

○伊勢國度會郡大湊町二設立

廣告

出港時刻

紀州各港大阪行ハ毎日一回
午後八時出港伊勢尾張行ハ
毎日二回午前六時午後二時

寄港地

出港
長嶋、嶋勝、引本、尾鷲、九鬼
木ノ本、三輪崎、勝浦、古座、
串本、田邊、和歌山、〇二見、
神社、津、四日市、大野、熱田



藤本回漕店

大阪商船株式會社鳥羽荷取扱店

志州鳥羽港

棧橋

休憩所

當港ニハ會社附屬ノ棧橋設
置アリ旅客ノ乗船下船ニ
ハ至極御便利ニシテ且安全
ナリ
出港時間御待合ノ爲メ
休憩所ノ設ケアリ適宜御休
憩アルベシ

志勢通信社營業概要

通信部

○通信ハ世上諸般ノ事件ハ小難易ヲ問ハス之ヲ日刊新聞并雑誌又ハ各地方通信へ通報ス
 ○通信上ノ連絡ハ内外ヲ論セス已ニ十分ノ特約アルヲ以テ通信事件ハ必ズ取録セザルコト
 ナシ
 ○通信ハ直接ト間接トアリ往々其他ニ必要ナラザルモノアリト雖モ當通信部ハ或ル條件ヲ
 以テ確約アレバ總テ直接ニ取扱ハル、モノトス
 ○通信ハ世間ニテハ通常郵便ヲ以テスレドモ當通信部ハ肝要ナル件ハ總テ電信ヲ以テ通報
 スルコト、セリ

探偵部

○探偵部ハ積年本業ニ従事シ特ニ其事ニ堪能ナル探偵員數名ヲ撰拔シ其方面ヲ擔當セシム
 ○探偵部ハ個人ト團體タルニ拘ハラズ懇篤ニ其事件ヲ調査シ責任ヲ負フテ盡力スベシ
 ○探偵部ハ事件ノ難易ヲ問ハス總テ依頼者ノ希望ニ戻ラザル爲メ注意シテ慎重ニ秘密ニ取
 調ヘテナス
 ○探偵部ハ其種類ノ如何ニ不拘悉皆秘密ヲ嚴守シ誓テ他ニ洩泄セサルコトヲ保証ス
 ○探偵部ハ其事項ニシテ大ニ世上ノ不利益タルモノト認ムル場合ハ特ニ德義ヲ以テ一切本
 部ニテ引受取調ブベシ
 ○探偵部ノ重ナル種類ハ左ノ如シト雖モ此外何事ニテモ御委囑ニ應ズベシ
 ○諸會社ノ信用有無○諸會社重役并ニ社員ノ品行○諸會社ノ内幕○各銀行取引上ノ實況○
 各銀行重役并ニ行員ノ品行○各銀行商業上ノ盛衰○各旅館ノ内幕○各旅館信用如何○各教會
 講社内狀○官吏ノ私交并ニ平素ノ行狀○各商家ノ引ノ摸樣各人身元取調○男女ノ素行○
 神官僧侶ノ秘事○料理店貨座舖ノ内幕○藝妓ノ素性并ニ平素ノ摸樣
 ○探偵部ハ最モ當縣下及ヒ山田地方ニ全カチ注キ居レハ大小ヲ問ハス御依頼アルベシ

廣告部

○探偵部ノ報酬ハ難易ニ由リテ適宜之ヲ定ム
 廣告ハ文明ノ一大利器ニシテ而カモ商業界ニ於ケル唯一ノ要具ニ屬シ、恰モ戰爭ニ於ケル
 武器ト同シク、平日ニテハ廣告ノ作用員ニ一日モ忽ニス可カラズ
 夫レ廣告ノ巧拙ハ取リモ直サズ商業家ノ盛衰ヲ意味スルモノト謂フモ亦タ虚言ニアラサル
 ナ信ズ、世ノ文明ニ進ムヤ交通機關ノ發達ヲ促スト同時ニ廣告的手段ニアラユル工夫ヲ費
 シ他ヲ凌駕セントスルハ必至ノ勢ト謂フベシ、我邦ニ在テモ其ノ必要ヲ感スルヤ切ニシテ
 、都鄙到ル處一日ヨリモ競フテ斬新ノ方法ヲ研究シテ已マサルハ實ニ二十世紀ノ現象ト
 シテ祝ス可キ極少ナラズヤ、吾人斯業ニ從事スルコト此ニ在リ人ノ爲メニ廣告上ノ
 利益ヲ與フルヤ鮮少ナラズ然レトモ今ヤ世局一變、進化ノ速力ハ測ルヘカラス、故ニ本
 ニ於テモ、大ニ諸般ニ改良ヲ加ヘ、日進月歩ノ時運ニ伴フ可キ手段ヲ應用シ、敏速ニ機
 ニ廣告ノ効用ヲ速ナラシメンコトヲ企圖ス、此レ本社力大方ノ愛顧ニ辜負セサルノ微衷ヨ
 リ出ルモノニシテ、其方法ノ如何ニ斬新ナルヤ、其手段ガ如何ニ敏速ナルヤハ御依頼ノ上
 御試験アラシテ希望ス

特色

○本縣内樞要ナル場所ニ派出員ヲ設ケ廣告上ノ便利ヲ計ル
 ○通信事務ト廣告事務ト相待テ普及ヲ計ル
 ○各府縣ニ特約通信員アレバ廣告上ニハ頗ル便宜ヲ有セリ

伊勢山田大世古町

志勢通信社

社主 内野熊太郎



廣告

弊館...ハ鳥羽港海岸ニ無比ノ好位置ヲ占
メ灣内ヲ臨ミ風景絶佳ナリ
弊館...ハ空氣流通能ク座敷數多ニシテ鳥
羽御遊覽ノ諸君或ハ御入港ノ旅客
等ニハ御旅館トシテ甚タ便利ナリ
弊館...ハ御客様ノ御望ニヨリ鮮魚ヲ生キ
タル儘御目ニ掛ケ調理スルニヨリ
味佳美ナリ
弊館...ハ夏季秋季ニハ御客様ノ舟遊及魚
釣等ニハ最モ御便利ヲ謀リ船頭及
釣道具附ニテ一日金五拾錢ニテ御
賄ヲナス
鳥羽港錦町海岸
軍艦御士官定宿

御旅館 谷岡屋正吉

海水浴及御料理

大陽館ハ二見浦海濱中ニテ最好位置ニア
リテ風景ニ富ミ清氣ノ充通良ニシ
テ他ニ比類ナキ海水浴場ナリ
大陽館ハ客間器具等總テ清潔ヲ旨トシ殊
更御待遇等ハ特ニ丁寧親切ナルヲ
以テ萬客ノ御愛顧ヲ得タリ
大陽館ハ近來貴顯紳士ノ御來泊頗ル多シ
大陽館ハ御賄等新鮮清味ニシテ宿泊料等
ハ勤メテ廉ナリ
大陽館ハ山田驛ヨリ里程二里六丁人力車
賃金貳拾錢以內時間ハ四十分ニシ
テ達ス
伊勢二見浦
二見 大陽館
ホテル

●神宮寶藏御太刀目錄

- 一 大和千手院 壹口 長二尺三寸六分五厘強
- 一 正徳五年八月 靈元天皇 一文字 長二尺二寸九分五厘
- 一 米金道 壹口 長二尺三寸二分
- 一 慶安二年九月 德川宗光 壹口
- 一 古道 壹口 長二尺三寸二分
- 一 來國行 壹口
- 一 全 壹口 長二尺三寸二分
- 一 一家以 壹口
- 一 清方 壹口 長八寸六分
- 一 元祿七年九月 德川綱吉母刀白 壹口
- 一 神息 壹口 長一尺一分
- 一 寛延二年九月 櫻町天皇 一家正 壹口
- 一 此長太刀ハ依藤太秀郷切也 壹口
- 一 天和二年四月 濱地重興 壹口
- 一 鬼道 壹口 長二尺四寸
- 一 天和三年三月 德川綱吉 壹口

◎神宮寶藏御太刀目錄

一大和千手院

壹口

長二尺三寸六分五厘強

正德五年八月

靈元天皇

一來金道

長二尺三寸六分五厘

全

一吉道

長二尺三寸六分五厘

壹口

全

一清方

長二尺二寸九分五厘

壹口

寬延二年九月

櫻町天皇

一神息

長二尺五寸九分

壹口

此長本刀ハ倭藤太秀郷松切也

明和二年四月

濱地重興

一鬼道

壹口

長二尺二寸九分五厘

全

一一文字

長二尺三寸二分

慶安二年九月

德川宗光

一來國行

長二尺三寸二分

壹口

全

一家以

長八寸六分

壹口

元祿七年九月

德川綱吉母刀自

一家正

長一尺二分

壹口

全

一雲以

長二尺四寸

壹口

天和三年三月

德川綱吉

一吉包 長二尺二寸四分強 壹口

天和二年六月 全

一行平 長二尺二寸八分 壹口

全 長二尺五寸二分強 壹口

貞享四年十二月 全

一近景 長二尺三寸三分強 壹口

元祿二年九月 壹口

一次家 長二尺三寸六分 壹口

全 長二尺三寸六分強

一景依 長二尺三寸六分強 德川吉宗 壹口

享保二年六月 德川吉宗 壹口

一來國俊 壹口

明和六年九月 壹口

一長光 長二尺五寸六分 德川家治 壹口

寶曆十年九月 德川家治 壹口

一國光 長二尺四寸三分 壹口

明和六年九月 全

一友安 長二尺二寸九分 壹口

安永七年十二月 全 德川家齋 壹口

一國真 長二尺三寸七分 壹口

全 長二尺三寸九分 德川家齋 壹口

一盛景 長二尺三寸九分 德川家齋 壹口

天明七年十月 德川家齋 壹口

一遠近 長二尺三寸二分五厘 德川家齋 壹口

寬政元年九月 德川家齋 壹口

全 長二尺三寸七分五厘 壹口

一吉包 長二尺二寸九分五厘 壹口

享保十年十二月 壹口

一正恒 長二尺三寸二分 壹口

享保十四年九月 壹口

一國永 長二尺五寸一厘 壹口

全 長二尺三寸七分強 壹口

一助守 長二尺三寸七分強 壹口

享保十年十二月 壹口

一信房 長二尺三寸五分 德川家治 壹口

寶曆十年九月 德川家治 壹口

一助宗 長二尺三寸九分 壹口

一弘利 長二尺 壹口

全 長二尺六寸八分五厘 壹口

一雲生 長二尺六寸八分五厘 壹口

文化六年九月 全

一吉用 長二尺三寸九分 壹口

全 長二尺三寸九分 壹口

一近景 長二尺五寸二分五厘弱 壹口

文化十一年十二月 全

一則長 長二尺三寸八分強 壹口

全 長二尺三寸四分強 壹口

一行廣 長二尺二寸四分強 壹口

長二尺三寸五分 全 壹口
 一正廣 長二尺三寸〇五厘 壹口
 天保五年十一月 德川宗慶
 一忠廣 長二尺三寸〇五厘 壹口
 全 壹口
 一正廣 長二尺三寸三分 壹口
 天保八年九月 德川宗慶
 一忠吉 長二尺三寸五分 壹口
 全 壹口
 一國正 長二尺三寸六分五厘 壹口
 嘉永二年九月 全 壹口
 一康繼 長二尺三寸六分 壹口

全 壹口
 一吉信 長二尺七寸四分 壹口
 萬治二年十一月 德川家綱
 一助長 長二尺三寸九分 壹口
 寬文三年六月 全 壹口
 一長光 全四年二月 壹口
 一康光 長二尺四寸七分 壹口
 全五年六月 全 壹口
 一長光 長二尺二寸八分 壹口
 萬治二年十一月 全 壹口
 一守家 長二尺五寸二分強 壹口
 寬文三年六月 全 壹口
 一宗忠 壹口

長二尺三寸三分 全 壹口
 寬文五年六月 全 壹口
 一一文字 長二尺六寸三分五厘 壹口
 寬文九年九月 全 壹口
 一信國 長二尺四寸二分五厘 壹口
 寬文四年二月 全 壹口
 一國吉 長二尺五寸一分 全 壹口
 寬文九年九月 全 壹口
 一國以 長二尺三寸七分五厘 壹口
 延享二年十一月 德川宗重
 一吉房 長二尺三寸一分 壹口
 全 壹口
 一守友 長二尺五寸一分 壹口

寬延二年九月 全 壹口
 一兼光 長二尺 壹口
 寶曆二年十二月 全 壹口
 一長則 長二尺三寸六分五厘 壹口
 全 壹口
 一助吉 長二尺三寸六分 壹口
 寬延二年九月 德川家重
 一國俊 長二尺四寸六分五厘強 壹口
 寶永六年九月 德川家宜
 一俊忠 長二尺四寸九分五厘 壹口
 寶永七年四月 壹口
 一國俊 長二尺五寸三分 壹口
 全 壹口

- 一是一 壹口 長二尺三寸五分
- 嘉永七年後七月 德川宗定
- 一國正 壹口 長二尺三寸七分
- 全 壹口
- 一國正 長二尺三寸七分弱
- 安政六年九月 德川家茂
- 一康繼 壹口
- 全 長二尺三寸三分五厘
- 一是一 壹口
- 長二尺三寸六分
- 慶應三年九月 德川慶喜
- 一元繼 壹口
- 長二尺三寸五分
- 全 壹口
- 一守次 壹口
- 長二尺二寸七分五厘
- 正德二年十二月 德川家繼
- 一助久 壹口
- 長二尺四寸二分五厘強
- 全 壹口
- 一兼廣 長二尺四寸九分五厘
- 壹口
- 一一文字 松平陸奥守
- 壹口
- 長二尺三寸
- 延寶五年八月 安藤對馬守
- 一助宗 壹口
- 長一尺七寸六分
- 天保六年閏七月 中田源八
- 壹口
- 一無銘 保昌五郎 永原左京
- 元祿八年五月 壹口
- 一廣房 長一尺一寸
- 嘉永二年九月 尾張國竹屋九造

- 一無銘 但祐貞 壹口
- 長一尺九寸四分
- 元祿八年五月 加賀國永原左京
- 一國廣 壹口
- 長二尺四寸九分五厘
- 安政二年四月 伊井直弼
- 一清光 壹口
- 長二尺一寸五分五厘
- 式部 享保十九年七月 加賀國永原左京
- 一無銘 但備中雲重
- 長二尺五寸三分
- 元治元年三月 志摩國稻垣房矩
- 一實行 壹口
- 長二尺三寸八分
- 元文四年八月 石川播摩守

●典例摘要

鎮座起源

内宮ハ、第十一代垂仁天皇ノ御世ニ、皇女倭姫命ヲ御杖代ト定メ給ヒ大和國ヨリ伊賀、近江、美濃ノ國々ヲ經テ終ニ五十鈴川上ニ鎮座サセ給ヘリ、實ニ紀元六百五十六年ナリ

外宮ハ第二十一代雄略天皇ノ御代ニ、皇大神ノ神勅ニ依リテ、大佐々命（度會神主ノ祖先）ニ勅シテ、川波國比治眞名井原ヨリ迎ヒ遷シ奉リ給フ、内宮御鎮座ヨリ四百八十二年ノ後ナリ

式年遷宮

二十年ヲ經ル毎ニ、造替遷宮ノ制ヲ定メ給ヒシハ、第四十代天武天皇ノ御世ニシテ、第四十一代持統天皇ノ御世ニ、始メテ之ヲ實行シ給ヘリ、此ノ式年ノ外、事故アリテ臨時遷宮、假遷宮等モ屢々アリタリ

齊王

未婚ノ皇女又ハ女王ヲト定シテ、齊王トナシ給ヒシ事ハ、最モ著シキ古例ナリ、世俗之ヲ齊宮女御ト云ヘリ、第十代崇神天皇ノ皇女、豐鋤入姬命ヲ其第一代トシ、第九十六代後醍醐天皇マデ、七十餘代ニ及ビシカ、戰亂ノタメ廢絶セリ、多氣齊宮村ハ、其寮舎ノ在リシ地ナリ

祭主

往古、神祇官ヲ置カレテヨリ後、神祇伯ト神宮祭主ト各分別セリ、第十二代景行天皇ノ御世ニ祭官職ヲ置カル、明治前迄ノ祭主ハ、藤波子爵家ノ世職ナリシガ、現今ノ官制ニテハ、皇族若クハ公爵ヲ以テ任命セラル、事トナリ、陛下ノ大御手代トシテ神宮ニ奉仕シ給フコト、古ヘノ齊王ノ例ノ如シ

神領

往古ハ、度會、多氣、飯野ノ三郡ヲ、神國又ハ神三郡ト稱シテ、神宮ノ所領タリシカバ、其租庸調ヲ以テ諸ノ調度ニ供セラレシガ、鎌倉時代以後、漸ク減縮シテ宮川以内ノ地ヲ有テリ、又神三郡ノ外、五畿七道諸國ニ散在セシ、數多ノ神地、神戸モ、時勢ト共ニ

變遷シテ、其舊例ヲ存セザルニ至レリ、但シ徳川幕政ノ末迄、神領内ニハ、守護不入ノ特典ヲ與ヘラレキ、明治四年、神宮制度改革ノ際、悉ク神領ヲ上地シテヨリ、調度ハ皆國庫ノ支辨トナレリ

御師

御詔刀師、御祈師ノ畧語ニシテ、世人之ヲ大夫ト稱セリ、鎌倉時代ヨリ某大夫ト稱シテ王侯ニ大麻ヲ奉レリ、其後、庶民ノ神納セントスル幣帛ヲ紹介シ、又祈禱ヲナシ、神樂ヲ奏シテ、諸國參宮人ヲ、自邸ニ宿泊セシムルノ習慣ヲ馴致セシガ、明治四年ヲ以テ停止セラレタリ

○參拜順序

參拜順序ハ各人ノ任意ナレドモ、勅使參向ノ大祭ハ、悉ク外宮ヲ先トシ内宮ヲ後トシ給ヘリ、而シテ世人來詣ノ路順ヨリスルモ、亦先外宮ヲ拜スル方、便宜ナルベシ、但シ兩宮域内ノ參道ニハ、各表裡ノ兩道アリ、説明ノ順序ハ、表道ヨリ入り、裏道ニ出ルノ習慣ニ從ヘリ、能ク其道ヲ知リテ先ッ其本宮ヲ拜スレバ次ニ第一ノ別宮(外宮ニテハ多賀宮、内宮ニテハ荒祭宮)ヲ拜スルコト、參宮者ノ本義トスル所ナリ、外宮ハ農桑ノ原素ヲ掌ラセ給フノ御神德ニ因シテ、其神苑ノ北面ニ、神苑會、農業館ノ設置アリ、參拜ノ諸士ハ宜シク此館ヲモ參觀セラルベシ、外宮ヨリ内宮ニ至ル

間ノ名跡ヲ左ニ

○高倉山 外宮々城ニ接シテ、其南面ニ在ル一小山ナリ、山頂ニ窟アリ、明治以前マデハ、此岩窟ヲ天ノ岩戸ト云ヒ傳ヘタリキ

○清盛楠 外宮々城ノ入口ニアル楠ノ老樹ナリ、往古平清盛、勅使トシテ參向ノ節、其冠ニ障リタル枝ヲ伐採セシメタルヲ以テ名クト云フ

○宮崎文庫 大字岡本町ノ南ニ在リ、慶安元年、權禰宜出口延佳、岩出末清等ノ首唱ニテ創設セリ、明治以前マデハ、神官子弟ノ修學所トナセシガ、今ハ創設者ノ子孫及ビ社中共有トシテ、火災ニ殘リシ書庫一棟ヲ保存セリ、和書七千八百二十八冊、漢書一萬三千二百三十四冊ヲ收ム

○度會郡表忠碑 大字岡本町、元神風講社ノ境内ニ在リ、明治二十七八年ノ役ニ戰死病死シタル、度會郡出身ノ軍人軍屬ノ忠勇ヲ表シ、且ツ其靈ヲ慰メンガ爲メ、有志者之ヲ建設セリ

○五二會館 株式會社ノ組織ニシテ、大字尾上町字虎尾山ノ勝地四町步間ニ、會館ト商品陳列場トヲ建設ス會館ハ一定ノ席料ヲ以テ旅客ノ休泊ニ供シ、陳列場ハ百貨ヲ陳列シ、定價ヲ附シテ販賣ス、神苑會々員ハ神苑會ト該會館ト特約アルヲ以テ、株主同様ノ取扱ヲ受ケ得ラル、ナリ

○於杉、於玉 尾上坂及ビ浦田坂ノ兩所ニ在リ、古ハ浦田坂ノ方ハ於鶴、於市ト唱ヘタリシト云

フ、共ニ此阪ヲハ間ノ山ト云ヘリ、三絃胡弓ヲ弄シ、小女ニ踊ラセテ錢ヲ乞ヒタリシガ、今ハ一ノ興行物トナレリ

○猿田彦神社 大字浦田町ニ見氏ノ構内ニ在リ、同氏ハ世ニ宇治ノ土公ト稱セリ、猿田彦神ノ裔孫、太田命ヨリ系統連綿タリト云フ

○神宮奉齋會大本部 大字浦田町ニ在リ、神宮奉齋會大本部長ノ所管ニシテ、全國奉齋會ヲ統率スル所ナリ、同會度會本部モ亦同構内ニ在リ

○祭主官舎 大字浦田町ニアリ、祭主ノ宮、參向ノ時、御宿泊ニ充ル所ナリ、此建物、元ハ慶光院ト稱シ、天正中、豐臣秀頼ヨリ片桐且元ヲ奉行トシテ創立セシモノナリシガ、維新ノ後神宮司廳ト爲シ、明治二十三年ニ至リ、修理ヲ加ヘテ現今ノ如クセラレタリ

○神宮皇學館 大字浦田町ノ往來ヨリ、五十鈴川ヲ隔テ、大字館町ノ田圃ノ間ニ在リ、神宮養成ノ爲メ、神宮司廳ニテ建設セラレ、十三歳以上ノ子弟ヲ募集シテ學科ヲ授ケラル、之ヲ専科生トシ又尋常中學卒業ノ後入學スル者ヲ本科生トス、學科ハ國語及ヒ歴史ヲ主トセリ

○神部署 大字浦田町ニ在リ、三十三年十月十五日ニ開署セラル、神宮司廳ニテ主掌セシ神樂殿、大麻局、製曆局ヲ引移シ第一課ニテ大麻、製曆ヲ分掌シ、第二課ハ神樂殿甲ノ二課ヲ内宮ト

シ乙ノ二課ハ外宮トス

○林崎文庫 大字今在家町ノ西裏ニ在リ、創立年間詳ナラズ、元ハ南方、丸山ト云フ所ニアリシガ、元祿三年今ノ地ニ移シタリト云フ、維新後神宮司廳ノ所管トナレリ、和書一萬四千五百六十七冊、漢洋書六千二百八十三冊ヲ藏ス

○細受 宇治橋ノ下ニ在リテ、長キ竹ノ竿ニ糸細ヲ張りテ、參宮人ニ投錢ヲ乞フモノナリ、往古、織田家ノ浪人、鳥屋左京ト云フモノ、槍ノ達人ニテ、竹ノ先ニ編笠ヲ附ケ、人ノ投ケ與フル錢ヲ、誤タズ受ケ得タリシヨリ始マルト云フ

○大山祇神社 ヤマカミ 内宮神苑ノ東ニ在リ、元ハ神宮ノ所管ナリシガ、今ハ村社トナレリ

○西行谷 ハ宇治橋ヨリ巽ノ方八九町ノ間ニ在リ、西行ノ遺跡ナリ春花、秋月最モ可ナリ殊ニ盛夏ノ候ハ避暑ニ適當セリ

○名物赤福餅 ハ大字中之郷町ニ在リ、今ヨリ約五十年前則チ弘化年間ヨリ始ルト云フ、大祭日節日等ニハ一日五六千人以上ノ來客アリテ平日少クモ千人以下チ下ルコトナシ、一ヶ年消費額、砂糖十五萬斤、餅米三千俵、小豆三千俵ニ及ベリト、今日デハ今回至ル處ニ其名ヲ知ラザルニ至レリ又以テ其盛ナルヲ知ルベシ

○神都ノ墟城

神都即チ宇治山田町ハ、西方、宮川ヨリ、東南方、五十鈴川ニ至ル細長ノ市街ニシテ、大字三十個町ヲ有シ、戶數六千四百餘、人口三萬〇八百有餘古ヘハ宇治郷(内宮領)ト山田郷(外宮領)トニ大別セシガ、明治二十二年以來、合併シテ宇治山田町ト稱ス、其面積七拾三方町餘ナリ西ハ宮川ヲ隔テ、小俣村、城田村ニ對シ、南ハ宮本村、沼木村ニ交シ、北ハ神社町、御園村、東ハ濱郷村、四郷村ニ接ス、而シテ内宮ヨリ東南方ハ、山脈遠ク延テ志摩ニ亘レリ、其山ヲ總稱シテ神路山ト云フ

○三重縣下物産

半紙、春慶塗漆器、傘、壺屋紙葺、合羽紙、張皮籠、河崎庖刀、塗箸、木箸、宇治山炭、貝細工、鍍詰、沙魚ノ垂レ、鮑和漬、青海苔(以上ハ神都ノ特産)時雨蛤、白魚罐詰、漆塗盆、萬古燒、生糸、素麩、菜種油、染形紙、布海苔、鹿尾菜、刻荒布、和布、鱈節、眞珠、伊賀土瓶、阿漕燻、麻裏草履、椎茸、松阪木綿、葉煙草、團扇、茄子形團扇、清酒、一志米、醬油、溜、味噌、油滓、瓦、西洋紙、紡績綿絲、絹綿交織物、製藍、足袋、木炭、薪、木材、藁干、鱒、田作、石花菜

○距離

外宮内宮間	五十町	外宮二見間	二里	内宮二見間	百町
外宮神社港間	一里	内宮朝熊山間	七十二町	山田鳥羽間	四里
内宮磯部間	五里	山田野後間	拾里	筋向橋驛外宮間	拾町
山田驛外宮間	五町				

○神苑會事歴

本會ノ創立ハ明治十九年六月トス初メ宇治山田町太田小三郎氏外十數名ノ發起者深ク感スル處アリテ神苑開設ノ舉ヲ主唱シ地方有志者ヲ喚起シテ拮据經營スル所少ナカラス乃チ事業ノ順序ヲ定メテ第一着ニ兩宮々域近地ノ人家ヲ掃ヒ此ニ神苑ヲ開キテ大ニ宮域ノ規模ヲ補ヒ清淨ノ風致ヲ修メムモノトシ事務所ヲ宇治山田町ニ設ケテ會務ヲ經始セリ時ニ正六位浦田長民度會郡長ノ職ニ在リ推サレテ假會頭トナル後神宮々司正五位鹿島則文氏浦田氏ノ後ヲ承ケテ其任ニ當レリ全二十二年五月大畧成苑ヲ奏スルト同時ニ會務擴張ノ運ヲ邀ヘ始メテ事務所ヲ東京三重ノ兩地ニ置キ大勳位有栖川熾仁親王殿下ヲ奉シテ總裁ニ載キ正二位勳一等伯爵森井友實氏ヲ會頭ニ推シ副會頭幹事長幹事委員等ノ職各其人ヲ得テ汎ク天下ニ會員ヲ募集スルハ勿論豫定第二着ノ事業ニ關シテ着々實施ノ步ヲ進メ先ツ農業館ヲ建營シ以テ徵古館假陳列場ヲ設ケシカ如キハ能

ク世人ノ知ル所トス今ヤ徵古館ハ專ラ建築ノ着手ニ從事ナシツ、アルハ其落成モ遠キニアラザルベシ而シテ現任職員ニハ大勳位功四級有栖川熾仁親王殿下ヲ總裁ニ載キ正三位勳一等男爵花房義實氏ヲ會頭ニ從三位勳三等周布公平氏ヲ副會頭ニ推シ此他幹事評議員及管財員トシテ左京ノ貴顯紳士數名アリ三重縣下ニハ幹事長幹事委員ヲ置キ又道廳各府縣ニハ委員總長副總長委員ヲ置キ郡區市ニハ委員長委員委員補ヲ置キテ其職ニ從事セリ
神苑會三重事務所ハ農業館ノ通路右ノ手ニ在リ

○農業館 附屬館

農業館ハ外宮神苑地ノ前ニ在リ、館内陳列品ヲ、二十四類ニ分チテ展列ス、凡ソ農作、種樹、漁獵、牧畜、養蠶、類ノ產物並ニ製品、及ヒ各種ノ標本、模型、圖書、統計、等悉ク網羅セサルナシ、本館設備ノ要ハ、學理ト實際トヲ併セ、一見通曉シ易キヲ旨トシ、人智ヲ啓發セシムルノ材料ニ供セシムルニアリ、明治二十四年四月建設以來、公衆ノ觀覽ニ供ス、其物品ノ蒐集陳列ハ、專ラ本會幹事田中芳男氏ノ擔當整理ニ成レリ、農業館列品目録ヲ編纂シテ印刷頒布セリ

附屬館ハ西隣ニ在リ、三重縣ノ寄贈ニカ、リ明治二十六年十一月ニ建設セリ陳列ハ工藝品ニシテ之ヲ十六類ニ別チ、列品目録ハ農業館列品目録ニ附セリ尙木水産部ヲ設ケ其内ニ水族棲息ノ

「ジャオラマ」的ノ摸形室アリ

○賓日館

本館ハ神苑會ノ附屬ニシテ、二見浦ノ清渚ニ臨ミ、音無山ノ翠巒ヲ負フテ築ケリ、明治二十年中ノ建築ニシテ、建坪百八十三坪餘アリ、同二十年三月、故英照皇太后宮、行啓ノ際、泊御ノ光榮ヲ辱フセシ所ナリ、爾後會員ノ宿泊休憩ニ充ツ、同二十四年七月、皇太子殿下モ亦タ此地ヲ海水ニ浴シ給ヒ氣候殊ニ宜シク且又風光明媚ナルヲ以テ數旬ノ泊御ヲ辱フセリ、皇太后陛下、皇太子殿下ヨリモ特ニ御下賜物アリ、樓上、伊勢灣ヲ隔テ、遠ク富士其他ノ諸山ヲ望ミ、近ク無數ノ島嶼、碁ノ如ク布キ、遠近ノ布帆、烟霧ノ間ニ往來シ、其風景筆墨ノ抽寫シ得ベキ處ニアラズ、就中、旭日波ニ映シテ萬丈ノ光芒ヲ吐キ來ルノ壯觀ハ他ニ決シテ見ル能ハザル所ナリ、金鳥新浴大東洋。帶レ濕朱輪未レ吐レ芒。參山遠山猶宿霧。海濤漸作ニ赤金光。三萬六千中一日。來レ此始見全日出。瞬息飛卵難ニ正視。乃信催レ吾白ニ鬢髮。今日春盡欲レ呼レ號。傳ニ語義和ニ且徐行。ト賴山陽ガ吟セシモ偶然ナラス

○徴古館

徴古館ハ高燥朗曠ノ好地則チ倉田山ヲトシテ將ニ建築ニ着手セントス抑モ本館ハ皇國開闢以來

ノ時勢ノ變遷、人智ノ發達ヲ徴ス可キ事物、即チ上下ノ儀式日常、調度類ヨリ、武器、文物、美術、工藝、等ニ至ル諸般ノ物品ヲ蒐集シ、之ヲ時代別ニ陳列シテ、見易ク解シ易ク、世人ニ示サントスルノ主意ニ在リ、目下假ニ二見浦ナル賓日館内ニ其幾分ノ物品ヲ陳列シテ、公衆ノ覽觀ニ供ス

○神路山

五十鈴川ノ水源ヲナセル山脈ニシテ、積翠千古ノ色ヲ呈セリ、宇治橋外ヨリ五個所道ニ入り、内宮手水場ヲ對岸ニ見テ五十鈴川ノ溪流ヲ訴ルコト凡ソ十四五町ニ至レバ、翠巒ノ碧澗ニ映シ、奔瀾ノ岩石ニ激スル光景、最モ壯快ヲ覺ユ、就中鮑石、海鼠石、屏風岩、御船石、牛石等ノ奇石怪岩、夙ニ著名ナルモノナリ此他見ル可キモノ屈指スルニ迫アラズ更ニ行クコト數町ニシテ、大理石質ノ鏡石ト稱スルモノアリ高サ二丈、廣サ五丈許ニシテ石面瑩澤ヲ帶ビ能ク物ヲ映ズベシ漸ク進テ幽邃ノ境ニ至レバ、大瀧小瀧ノ形勝ニ達ス、大瀧ハ高サ六丈九尺、廣サ四尺、小瀧ハ高サ四丈二尺、廣サ二尺、其飛泉直下ノ儼觀、人ヲシテ轉々羽化登仙ノ想アラシム苟モ神都ニ曳筇スル者ハ宜シク此等仙境ヲ跋渉シテ可ナリ

○朝熊山 野間本店

伊勢、志摩ノ兩國ニ跨リ海面ヲ抜クコト千七百尺ノ高山ニシテ登山ノ道、四アリ、一ハ内宮神苑

地ヨリス行程七十二町、一ハ四郷村大字楠部ヨリス同シク七十二町、一ハ同村大字朝熊ヨリス、同ク三十二町アリ内宮ヨリノ道ハ遠シト雖モ極メテ登ルコト易シ朝熊ヨリノ道ハ近シト雖モ峻ニシテ登ルニ難シ參宮ノ人ハ内宮ヨリ登リ朝熊ニ下リテ二見ニ赴クヲ常トス、此間人力車交通自在ナリ山頂ニ金剛證寺アリ、風景絶佳亦タ比スルニ物ナシ、山上野間園彦ノ万金丹本店アリ普ク江湖ニ傳播セリ

○二見浦

東二見村大字江村一帯ノ海濱ヲ云フ内宮ヨリ至ルニハ四郷村ヲ經テ汝合橋ニ出ル道アリ外宮前ヨリ至ルニハ、河崎町ヲ過キ、濱郷村ヲ經テ汝合橋ニ向フ汝合橋ヨリ二十町ニシテ達ス、白砂青松ニシテ海氣最モ清ク海水浴ニ適セリ風光ノ美伊勢名勝中ノ第一位ヲ占メタルモノトス、殊ニ人口ニ餘炙セルハ此浦ノ立岩トス此岩ハ大小ノ二個海中ニ聳立スルヲ以テ日ノ出ヲ觀ルニ名高シ烟波渺茫トシテ水光天ニ連ル際ニ昇リヤラヌ旭日ハ半圓ノ紅玉ヲ懸タルカ如ク得モ言レヌ光景アツテ實ニ絶世ノ偉觀カ謂フ可シ、旅亭、茶店、貝細工店等櫛比セリ東端ニ海水溫浴場ヲ設ク、實日館アリ徵古館ノ假陳列所トス

○鸚鵡石

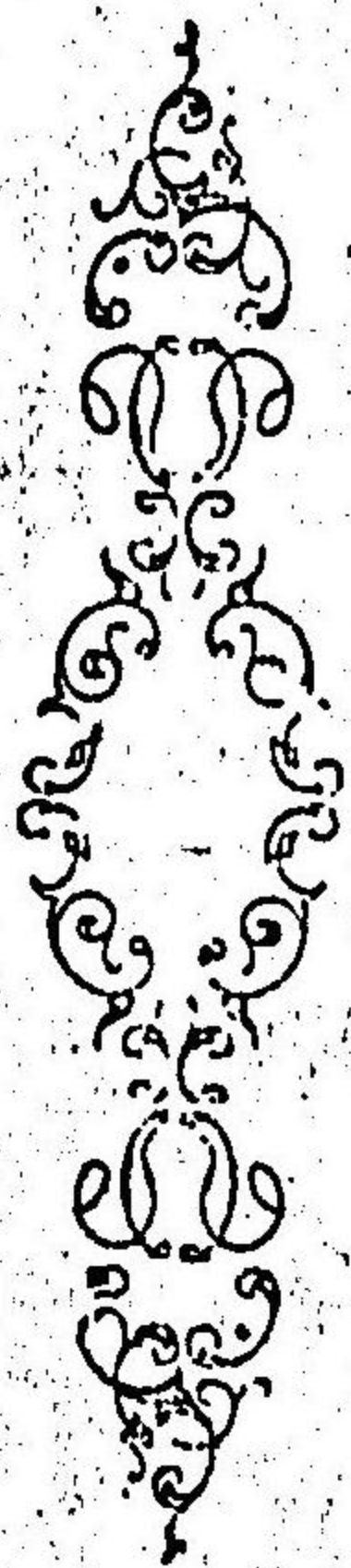
鸚鵡石トハ其形狀ヲ以テ名ツケタルニ非ラズ、能ク音聲ヲ反響スルヲ以テ名ツケルモノナリ、其所在二個所トス、一ハ志摩國磯部村伊雜宮ノ附近ニテ、十俗和合山ト稱スル山ノ半腹ニ在リ、高さ十二丈、横四十二丈ノ巨岩ニシテ、音聲ヲ反響スルコト、物ノ響ニ應スルガ如シ、一ハ度會郡一ノ瀬村字南中村ニ在リ、宇治山田町ヨリ南島道路ヲ行クコト凡七里ナリ、高拾丈餘、廣サ貳拾丈餘ノ巨岩、屏立ノ狀ヲナシ、右方百餘歩ニアル一巖ニ就キテ聲ヲ發テバ、巨岩ノ之ニ應ズルコト、怡モ人ノ假聲スルニ異ナラズ、靈元上皇曾テ畫師ニ勅シテ、此地ノ景狀ヲ曲屏ニ畫カシメ給ヒシヨリ、名聲遠近ニ馳セ、人トシテ之レヲ知ラザルナキニ至ラシメタリ

交

陸路ハ津以北ハ關西鐵道ニ連絡シ、津ヨリ山田間ハ、參宮鐵道二十六哩間ノ線路ナリ

通

海路ハ神社港(山田ヨリ一里十二町)ヨリ熱田、豊橋、北勢、鳥羽へ定期汽船ノ往來アリ
鳥羽港ヨリハ横濱、大阪、和歌山等へ汽船ノ往來アリ



名菓

五十鈴川

名菓

都の津と

名菓

きとらき

右繁舗調進ノ菓子ニシテ各博覽會品評會

ニ於テ有功優等賞牌褒狀數多受領

其他新菓子 各種

調進本舗

はりたや宗直

伊勢山田川崎町ノ中央



名菓

神代之風

名菓

伊勢之沖

右從來伊勢名産ノ菓子ニシテ博覽會品

評會等ヨリ有功優等賞牌ノ受領多シ

此外ニ各種ノ菓子及食パン等アリ

伊勢山田中島町并七番地

豊流軒

前川篤美

和菓子調製本舗

五十鈴川

都の津

ささら

調達本舖

伊勢之沖

萬葉

名菓

神代之風

名菓

伊勢之沖

◎本館、外宮内宮ノ中央ニテ參宮往來ニ最モ便利アリ

◎本館ハ三層樓ニテ日本珍奇良材ヲ撰ヒ建造シタルモノニシテ新築十余年ノ久シキヲ經タルモノナリ其結構大ニ見ルベシ

◎本館ノ客室四十有餘ヲ有シ空輿流通四時ノ眺望最モ宜シ

◎本館ニハ日本一品ナル仁孝天皇陛下ノ天覽ヲ辱シタル神宮ノ支宇天然ニ現シテ靈木ヲ拜覽スルコトヲ得ルナリ

◎本館ノ山内停車場ニハ出入差出有之候間松島館ニ御下候ハハ入車手荷物等萬端御注意申上候

伊勢山田尾上町

(參宮ホテル)

三層松島館

山田停車場前

松島館支店

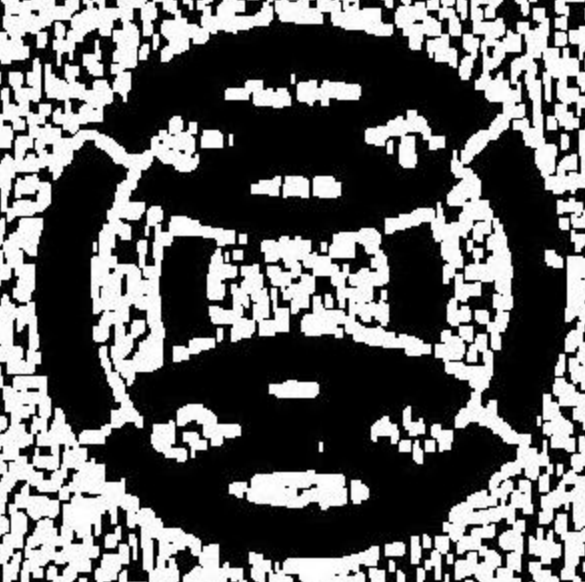
幸田源内大夫



津市九之内
伊勢新聞社

- 伊勢新聞社は明治十一年の創設に係り爾來二十有四年の久しき其操守を全ふし其主義を變ぜず木鐸の任に當る全國の各新聞に對して遜色なきは吾人の信じて疑はざる所なり
- 伊勢新聞は記事正確にして報導頗る迅速なり近くは縣下の出來事より海外の事情に至る迄細羅餘す處なし故に本紙を藉かば戸を出でずして天下の形勢は一目して瞭然たらむ
- 伊勢新聞は發行紙數最も多く社界の上下に多數の讀者を有するに付廣告の利目は他の新聞に倍從す
- 伊勢新聞の購讀及廣告掲載は本社若しくは支局及び各取次店に申込相成たし

伊勢新聞の商標
伊勢新聞の商標



株式會社
五二會館

土地高燥空氣清爽にして四時の眺望極めて佳絶なり
 内外貴賓の御体泊御保養場は最適なり御料理は御望
 下は和洋行に於て御膳料
 御宿泊料は一年圓一季圓五拾圓三季圓其他
 各種の御集會に於て一定の御席料申上り
 本館の特色として御茶料は一切申上り
 山田村の御宿場は明治十一年の創設
 電話略番一五二

津市丸之内
伊勢新聞社



写真

●伊勢新聞社は明治十一年の創設に係り爾來二十有四年の久しき其操守を全ふし其主義を變せず木鐸の任に當る全國の各新聞に對して遜色なきは吾人の信じて疑はざる所なり

●伊勢新聞は記事正確にして報導頗る迅速なり近くは縣下の出來事より海外の事情に至る迄網羅餘す處なし故に本紙を繙かば戸を出せずして天下の形勢は一目して瞭然たらむ

●伊勢新聞は發行紙數最も多く社界の上下に多數の讀者を有するに付廣告の利目は他の新聞に倍從す

●伊勢新聞の購讀及廣告掲載は本社若しくは支局及び各取次店に申込相成たし

伊勢新聞社
山田支局 新設廣告

明治卅四年五月一日ヨリ新設ス

- 一新聞配達
 - 一廣告依頼
 - 一印刷物注文
- 右本社同様の責任を以て
御引受可申候也

伊勢新聞社

宇治山田岡本町
百拾七番地

山田支局

伊勢新聞社

副業廣告

- 活版印刷部新築工成り去月
來移轉大に營業を擴張せり
- 御依頼物は廉價を旨とし精
巧の機械により迅速御調製
可申上事
- 歐文和文共凡て熟練なる職
工を増聘致候事
- 御注文物は大小精疎如何な
るものにて御調製可致多
少は係らず御用有之度事
- 御注文物は本社若くは山田
支局へ仰付相成度事

伊勢新聞社 活版印刷部

○龜山驛 ハ元石川氏ノ城下ニシテ戸數千三百餘、人口七千六百有餘ヲ有スル小都會ナリ

○日本武尊山陵 龜山ノ北方一里半余能褒野ニ在リ

○龜山公園 ハ舊城本丸址ニ在リ土地高燥鈴鹿川ヲ瞰下シ風景頗ル佳ナリ

○專修寺 ハ一身田驛ニ在リ眞宗高田派ノ本山ニシテ見眞大師親鸞上人ノ開基ナリ、昔ハ下野國芳賀郡大内庄柳島ニ在リシヲ第十世眞慧上人ノ時此地ヲトシテ移ラレ、十二世眞慧上人ノ時代ヨリ門跡號ヲ勅許セラレタル名利ナリ、本尊ハ一光三尊阿彌陀如來ノ金像ニシテ、櫻町天皇及今上天皇陛下ノ天拜アラセテラレタルヨリ、天拜一光三尊佛ト稱シ、世ニ尊敬セラル、本堂御影堂以下ノ堂宇結構廣大ニシテ、輪奐美ヲ極メ、菩提樹及枝垂柳ノ二株アリ、見眞大師ノ手植ニシテ元下野國高田ニ在リシヲ此處ニ移植シタル靈木ニテ世ニ稀ナルモノトス、法會ハ報恩講(一月九日ヨリ十六日マテ)千部會(四月十月)讚佛會(春秋彼岸)修正會(一月一日ヨリ三日迄)中祖忌(十二月八日ヨリ十日マテ)列祖忌資堂講(五月五日ヨリ七日マテ)降誕會(五月廿一日)等ナリ當日善男善女ノ參詣者充満シテ立錫地ナキ有様ナリト云フ

○津市 ハ伊勢國ノ中央ニ在リ元藤堂藩ノ城下ニシテ、戸數六千二百余人凡ソ三萬二千余ヲ有シ三重縣廳ノアル所トス、縣下第一繁昌ノ地ナリ、當地ハ參宮鐵道ノ起点ニシテ山田ニ至ル

第一ノ停車場ナリ

四十六

○賢崎港 ハ市ノ東端ニ在リ、漁船ノ交通頗ル頻繁ニシテ日本郵船會社ノ如キモ横濱四日市間ノ定期船ヲ寄港セシム

○津公園 ハ元藤堂侯ノ別野ナリ、一堆ノ丘陵老樹高木ノ翳鬱タル間ニ潺湲タル清泉ヲ湛ヘ、大ニ風ヲ添ユ、殊ニ櫻楓躑躅等交錯シテ四時ノ雅興ヲ補ケタレバ、園内ノ眺メ一入ナリ俱樂部アリ會員ノ紹介アラバ一日ノ閑遊聊カ愁腸ヲ洗フニ足ルベシ

○觀音寺 ハ中央大門町ニ在リ、本尊如意觀音ハ昔者阿漕ケ浦ニ於テ漁夫ノ網ニ入り之ヲ得タルヲ時ノ國司爲メニ堂宇ヲ建立シタルモノナリト云フ、本堂及ヒ仁王門トモ結構壯麗ナリ境内ハ市中第一ノ繁華ナル所ニシテ、種々ノ興業物茶店等軒ヲ接シテ日夜群集絶ヘズ

○八幡神社 ハ市街ノ南端ニアリ伊勢平氏忠盛ヲ勸請ナリシガ、藤堂高次更ニ之ヲ營繕シテ鎮守ト定ム、毎年十月十四日十五日十六日大祭ヲ行フ

○結城神社 ハ別格官幣社ニシテ市街南端八幡神社ノ境内ニ在リ、南朝遺臣結城宗廣朝臣ヲ祭祀スル所トス、毎年五月一日ノ祭典ニハ競馬ノ催等アリ中々雜沓ヲ極ム

○阿漕塚 ハ阿漕停車場ヨリ二十町ノ間ニ在リ、俗ニ阿漕ケ浦ト稱スル所ニテ殺生禁斷ノ場所

ニ網ヲ入レタル阿漕平次ガ塚ニシテ、其事ハ稗史ニ名高シ、碑ニハ芭蕉翁ガ「月の夜の何を阿古木に啼く千鳥」ノ句ヲ刻ス

○榊原温泉 ハ一志郡榊原村ニ在リ、皮膚病癩麻質斯等ニ最モ特效アリ、浴室ノ構造ハ清潔ニシテ心地ヨシ、近傍ニ海石山等ト云フ所アリ、貝殻ノ化石多ク山ニ登リテ蛤、法螺貝ノ類ヲ獲ル亦一興ナリ

○香良洲浦海水浴 ハ高茶屋停車場ヨリ三拾五町ニテ達スルコトヲ得、一簇ノ松原波打際ニ近ク林ヲ爲シ、砂白ク松青ク間ニ稀有ノ名區タリ、寄セ來ル浪ノ穩ナルコト油ノ如ク、海水浴ニハ適當ノ處トス殊ニ夏時ノ避暑ニハ紅塵ヲ脱シテ、清味大ニ掬スベシ旅館ニハ日出館、松阪屋等アリ月ニ雪ニ往テ一醉ヲ買フ可シ

○新家桃林 一志郡桃園村大字新家ニ在リ、停車場ヲ距ルコト僅カニ一里程ニ過キズ、雲出川一帶ノ堤ニ沿フテ一萬五千餘ノ桃樹林ヲ爲シ、開花ノ候ハ紅雲天ヲ蔽フテ、遊人織ルガ如ク殆ンド仙境ニ在ルノ思ヲナサシムト云フ

○久居町及桃林 一志郡久居町ハ人口三千六百、戶數八百余ヲ有スル小市街ナリト雖モ、伊勢米中ニテ最モ有名ナルモノニテ此地附近ハ則チ重モナル處トス、桃林ハ新家ニ比スレハ樹數一

層多ク、觀花ノ盛時ハ非常ノ混雜ヲ見ルト云フ

○松阪町 ハ津市ト山田町トノ中央ニ在ル市街ニテ其廣袤東西三十四町南北二十二町戸數三千人口一萬三千余ヲ有シ、古來商業ヲ以テ世ニ知ラル、三井家ノ祖先ハ此地ヨリ出身セリト云フ、附近ニ大口港アリ、船舶輻輳シ出入ノ貨物頗ル多シ

○午頭天王祇園會 毎年六月七日ヨリ同十四日ニ至ル間ニシテ、神輿ノ渡御、御巫女祠部ノ奏樂等アリ、岡寺初午ト並ヒテ最モ盛ナル祭トス

○岡寺觀音會式 每年初午ノ日ニシテ、遠近ヨリ參詣者夥シク繁昌一方ナラズ、松阪第一ノ賑ナリト云フ

○愛宕市 ハ毎月二十四日愛宕權現ノ例祭ナルカ、就中舊曆十二月二十四日ハ愛宕市ト稱シ、遠方ヨリ商人爭ヒ來リテ數町ノ間ニ露店ヲ張リ、所謂年ノ市ニテ繁華雜沓名狀スベカラズ

○松阪公園 ハ全町殿町ニ在リ舊城址ナリ、天主閣樓門等ハ徳川幕府ノ天下トナリシ時取毀タレタルモノナリト云フ、唯ダ石壁高ク聳ヘ空シク老松ノ繁茂スルノミナレドモ、眺望ハ最モ宜ク此レ亦タ散策ノ名區ト謂フ可シ

○山室神社 公園ノ麓ニ在リ、本居宣長翁ヲ祀ル

○本居宣長翁ノ墓地 ハ松阪町ノ西南一里半、山室山ノ頂上ニ在リ

○岩内山瑞巖寺 伊勢寺村岩内山ノ麓ニ在リ、山ニ倚リ池ヲ擁シ奇石怪石ノ間清流泉ヲ爲シ、實ニ奇勝ノ地ナリ、此寺ニ石觀音トテ天然ノ巨岩ニ觀音ノ像ヲ刻タルモノアリ、昔シ弘法大師行脚シテ此地ニ至リ、山上ニ瑞雲ノ起ルヲ見ル、乃チ錫ヲ駐メテ此石ニ佛像ヲ刻シ、一寺ヲ建立セリト云ヘ傳フ、池中ニ一祠アリ辨財天ヲ祀ル

○大石不動尊 ハ松阪停車場ヨリ四里并五町、和歌山街道ニ在リ不動院金常寺ノ本尊ニシテ石佛ナリ、境内辨天岩、觀音岩、炮烙岩等大ニ見ル可キモノアリ、不動瀑ノ如キハ直下二十丈頗ル偉觀ナリ

○安樂天神祠 ハ多氣郡相可村ニ在リ、今停車場ヲ距ル十餘町安樂寺ノ境内ニ在リ

○神山一乘寺 ハ楠田川ノ北岸神山ノ嶺ニ在リ、藥師佛ヲ本尊トス、直立三十丈眺望極メテ開豁ニシテ最モ風光ニ富メリ、山腹ニ伊藤東涯翁ノ詩ヲ勒ス

○丹生大師 ハ丹生山成就院神宮寺ノ本尊ニシテ丹生村ニ在リ、弘法大師ノ創設スル所ナリ、昔ハ七堂伽藍ノ靈場ナリシカ屢々兵火ニ罹リテ今ニ存スルモノハ、大師堂、藥師堂、觀音堂、經藏、仁王門ナリ

○千引石 ハ有田村字久保ニ在リ、鳥居ヲ立テ玉垣ヲ繞シタル内ニ高サ一丈餘ノ大石アリ、婦人
人兒ノ病ニ功驗アリトテ參詣スル者多シ

○齋宮舊跡 ハ田丸停車場ヨリ一里二十町ニシテ齋宮村ニ在リ、昔内親王ノ未タ嫁セサル方ヲ
選ヒ、太神宮ニカシツカシメ給ヒタル例アリ、其宮ヲ齋宮ト稱ス、廣サ四道ノ南北數十町ニ亘
レリ

○柳原觀音 川添村字柳原ニ在リ、本尊觀音ハ聖德太子ノ自ラ彫刻セラレタルモノニシテ、毎月
舊十八日ハ則チ縁日ナリ

○宮川 ハ南勢第一ノ長流ニシテ、宇治山田ノ西端ヲ經テ上條村ニ至リ大港ニ入ルモノト、高瀬
村ニ入ルモノト二派ニ分レ、何レモ水運ノ便ヨロシク河口ヨリ十五里餘ノ上流ニ湖リテ舟楫
ヲ通スルコトヲ得、往昔ヨリ河原禊トテ勅使參向ノ時此川ニ於テ修祓ヲナスノ儀式アリテ、現
今ニ至ルマデ行ハル

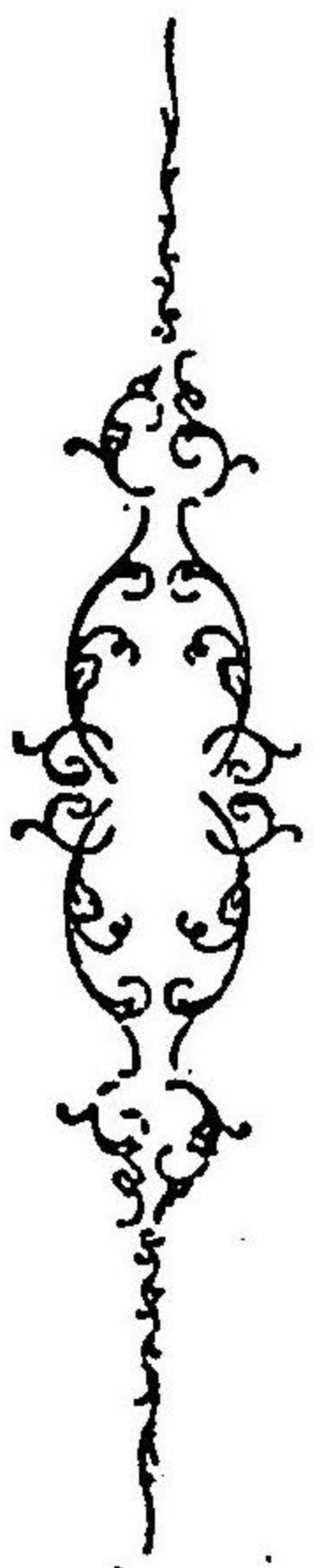
○宮川ノ櫻花 堤防ノ東側、凡ソ十町ノ間一帶ノ櫻樹ナリ、鼓ヶ岳ノ峯ヲ負ヒ、宮川ノ流ニ臨
ミ、山水明媚ノ間ニ爛熳タル花ヲ觀ル實ニ幅活畫ト謂フ可シ、花時ニ方テハ遠近ヨリ節ヲ曳ク
者夥シト云フ

○業平松 ハ小俣村ヲ距ル北方一里大淀村ニ在リ、昔在原業平朝臣カ此濱ヨリ尾張國ニ渡ラン
トスル時人ノ此ニ見送リタルヲ以テ名ケタリト云フ、今存スルモノハ後ニ植ヘ更ヘタルモノ
ナリト云ヒ傳フ

○八雲神社祭禮 同社ハ大淀村(小俣ヨリ一里)ニ在リ、舊曆六月十四日ニ行フ、神事頗ル盛大ナ
リ、此地ハ煙火ニ巧妙ナルヲ以テ徹夜之ヲ打揚グルコト幾百ナルヲ知ラズ、最モ美觀ナルヲ以
テ見物人海濱ニ充滿スト云フ

○鳥羽港 ハ志摩國ニ在リ、灣内水深クシテ我國長港ノ一トシテ名已ニ高シ、出入ノ船舶常ニ絶
ユルナク尾張伊勢ヨリ紀伊大阪トノ間汽船定期ニ交通ス

○日和山 港ノ北方ニ峙ツ小峯ニシテ、碇泊中ノ舟子此山ニ登リテ天候ヲ見定ムルヲ以テ名ア
リ、山上ニ至レバ眼下ニ港口ヲ擁スル無數ノ島嶼散在シ、伊勢灣ヲ隔テ、尾州知多郡ノ半島及
ヒ三州伊良子崎ト相對シ、遙ニ富士山ヲ望ム其風景佳絶ナル世間ニ多ク見ザル所ナリ



○停車場出口へ出迎人差出候間(高千穂館)と御呼び
被下度萬事御注意申上候
○御乗降の際、切手、手荷物、人力車、雨天は傘、足駄、
夜中は提燈して御注意仕候
○御指定の旅籠ある御方は篤實に御世話仕御案内申
上候間御注意申上候
○本館(北村屋)は二百有余年間官家各位の御愛顧を
蒙り難有奉謝上候
○本支本館信用可否は警官神官員鐵道係(地方商家
御問合せの上御往來願上候

伊勢山田外宮前

(北村屋甚藏事)

高千穂館

山田停車場前

高千穂館支店

山田停車場前

高千穂館

御下車之節御よび被下候へば人力車
手荷物萬端御注意申上候

株式旅館五二會館
神宮神苑會用達所
神宮奉齋會々員
送迎處

伊勢 漆器問屋 西田商店
伊勢宇治山田岡本町
商標

弊舎 勢水舎ラム子 廣告
ハ第四回内國勸業博覽會ニ於テ獲狀ヲ授領セリ内務省衛生試
驗所ニテ數回衛生上無害ノ報告ヲ得タリ
製造ノラム子ハ無色清澄ニシテ香味最嗜好ニ適シ且夏時佳絶
ノ飲料ナリ
製造品質佳良ニシテ水質遺憾ナク製造ハ機械新式完全無缺注
意周到ナリ

伊勢山田河崎町 小川酒店ラム子部

廣告

弊店 ハ當町之中央ニアリテ四時ノ曉露當地中ノ獨占殊ニ有名ナル
 日和山及鳥羽市街ヲ三階ヨリ一眸ニ收ムベキ好位地ニアリ
 弊店 ハ料理向キ四季常ニ新鮮ヲ撰擇シ安價ニ且ツ高尙ヲ旨トシ一
 ヲ御嗜好ト御眷顧ニ背カザランコトヲ勤ム
 弊店 ハ客室内空氣ノ流通最モ能ク客間及器具等總テ清潔ヲ旨トシ
 且賓客ノ取扱モ極メテ丁寧親切ニシテ此ニ遺憾ナシ
 弊店 ハ當地ノ名所舊跡等御來遊ノ諸君ニハ最モ御便利ニシテ日和
 山及舊城跡鳥羽鐵工所等へハ甚タ近シ

志州鳥羽港字本町 藤本亭

從四位松木美彦君

始祖天村雲命ハ天孫降臨ノ際供奉ノ神列ニ加ハリ勅ヲ奉シテ大勳ヲ奏シ、三代天日別命、八神武
 天皇ニ隨ヒ、伊勢國ヲ定メ國造ニ任セラル、八代大若子命ハ垂仁天皇ヨリ大幡主ノ名ヲ賜ヒ、全
 天皇二十六年傍姬命皇大神宮ヲ伊勢ニ奉還スルヤ、令旨ヲ奉シ五十鈴川大宮ノ地ヲ相シ大宮ヲ
 造リ奉リ、神國造兼大神主ニ任セラル、爾來子孫世々神職ヲ襲キ、美彦氏ハ從五位朝彥氏長男ニ
 テ、豐受大神宮ノ禰宜ニ任セラレ、後ニ三重縣々會議員ニ當選ス、明治十六年二月華族ニ列シ全
 十七年七月男爵ヲ授ケラル

正五位男爵澤田泰因君

澤田家ハ天御中主尊ノ後裔ニシテ、天見通命垂仁天皇ノ御宇傍姬命天照大神ヲ祭り、齋宮ヲ五十
 鈴ノ川上ニ建テ、鎮座セシ時ヨリ奉仕シ、十數世ノ孫最上成務天皇ノ御宇皇大神ノ朝夕大御饌
 料ノ三千代御田ヲ奉獻ス、其功ニ依リ姓荒木田ト賜フ數世ノ後子佐禰麿ノ時兩門ニ分派シ、佐禰
 底ヲ以テ嫡流一門ト稱シ、二男田長ヲ以テ奕流二門ト稱ス、爾來世々相承ケテ、皇大神宮ノ神職
 ナ瓊キ、以テ當代ニ至ル、并三年八月荒木田姓嫡流宗家トシテ、世々大神宮ニ奉仕セシ功勞ニ由

從四位松木美彦君

始祖天村雲命ハ天孫降臨ノ際供奉ノ神列ニ加ハリ勅ヲ奉シテ大勳ヲ奏シ、三代天日別命、ハ神武天皇ニ隨ヒ、伊勢國ヲ定メ國造ニ任セラル、八代大若子命ハ垂仁天皇ヨリ大幡主ノ名ヲ賜ヒ、全天皇二十六年倭姫命皇大神宮ヲ伊勢ニ奉還スルヤ、令旨ヲ奉シ五十鈴川大宮ノ地ヲ相シ大宮ヲ造リ奉リ、神國造兼大神主ニ任セラル、爾來子孫世々神職ヲ襲キ、美彦氏ハ從五位朝彦氏長男ニテ、豐受大神宮ノ禰宜ニ任セラレ、後ニ三重縣々會議員ニ當選ス、明治十六年二月華族ニ列シ全十七年七月男爵ヲ授ケラル

正五位男爵澤田泰罔君

澤田家ハ天御中主尊ノ後裔ニシテ、天見通命垂仁天皇ノ御宇倭姫命天照大神ヲ祭リ、齋宮ヲ五十鈴ノ川上ニ建テ、鎮座セシ時ヨリ奉仕シ、十數世ノ孫最上成務天皇ノ御宇皇大神ノ朝夕大御饌料ノ三千代御田ヲ奉獻ス、其功ニ依リ姓荒木田ト賜フ數世ノ後子佐禰磨ノ時兩門ニ分派シ、佐禰磨ヲ以テ嫡流一門ト稱シ、二男田長ヲ以テ奕流二門ト稱ス、爾來世々相承ケテ、皇大神宮ノ神職ヲ襲キ、以テ當代ニ至ル、并三年八月荒木田姓嫡流宗家トシテ、世々大神宮ニ奉仕セシ功勞ニ由

リ、特ニ華族ニ列シ男爵ヲ授ケラル

○磯部百隣翁ハ神都宇治町ニト居セラル、曾テ舊御師中ニテ、最モ古キ家筋ナリト稱セラル、磯部太夫ハ則チ翁ガ生レタル家ナリト謂フ、翁ハ北宗派中ニテ、夙ニ其蘊奧ヲ極メ書聲遐邇ニ揚ル翁ノ聲譽ヲ慕フテ贊ヲ執ル儕輩頗ル多ク、中村左州、鈴木紫陽、阪井泰諸氏皆チ翁ノ董陶ヲ受ケタルモノナリト聞ク

神農園

我が日の本は神代の昔しよりたかやしくさきることをもて基となし世々に賢き帝をはしまして殊更にたみの事を勧めたまひしかは其恵みむなしからずして斯く豊かなる國とはなりぬまして明治のさかんなる御代には農學校試験場などの設けありて下には協會組合などいふ企てあれば上下共にこゝろを田はたのつとめに用うる事のこるくまなく是れか爲めに其道のすゝみたることも亦著し抑も神風の伊勢の國は我國大廟のある所にしてもろくのあふきとふとみ常に集りつとふところなれば農事も亦ゆるかせにすへからずされはにや神苑會にては夙に農業館てふものを設け徧くくさくの産物或は農具など蒐めてもろひとの來り觀んことを促せしか猶未た是

等の品をひさくものあらざることを口惜しく思ひてたひ全會の許しを得て農業館の門前に於て新に家屋を廣め博く農業園藝養蠶等の器具及び内外各國に勝れたる最良有益なる種子苗木類を撰みあたひをやすくあきなひ四時大廟に參拜する全國農家諸君の便益を謀り併せて神恩萬分の一を報せんとするなり

▲五二會館

ハ地位モ結構モ世人ノ耳目ヲ惹クニ足レリ而モ明治三十三年一月四日ノ開業ニテ商品陳列場ハ全三十二年一月ヨリ開店セシモノナリ皇太子殿下ノ臨御遊バサレタルハ全三十三年五月廿四日ナリ有栖川宮殿下ノ御巡觀遊ハサレタルハ全三十三年五月廿四日ナリ日本全國實業大會ヲ開設セラレタルハ全三十二年四月廿五日ニテ山縣總理大臣ヲ始メ松方曾禰青木樺山ノ四大臣臨席サル

▲宇仁館

ハ神都旅館中ノ巨擘ニテ高樓天ニ聳ヒ其宏壯ナルコト先ツ以テ隨一ト稱セラル加之設備完全ニシテ注意周到盡サ、ル所ナシ參拜客ハ貴顯紳商ニ論ナク外客ニマデ其館名ヲ傳播セリ

▲神風館

ハ是又神都内ニ比類ナキ一大旅館ニテ外觀殊更ニ壯麗粉飾ヲ事トセス専ラ

實行之目的トス所謂數代連綿タル老舗ナレバ遠近ヨリノ來客接踵シテ流石廣大ナル客室モ爲
メニ狹隘ヲ訴フルニ至ルト云フ

▲澤瀉大夫

澤瀉大夫ハ舊御師中ニテ最モ舊家ニ屬シ關西地方就中大阪界限ノ得意
多シト謂フ而カモ五十鈴川ノ沿岸ニ好地位ヲトシ内宮神苑ニ對スルヲ以テ風景絶佳ナル世間
稀レニ見ル所ナリ

▲名物赤福餅

ハ已ニ參宮者ノ悉ク記憶スル處ナリ其風味清淡ニシテ下戸、上戸
ト雖モ頗ル其口ニ適セシム殊ニ其價廉ナレバ店頭常ニ客ヲ以テ充滿ス、地方今ニ至リテハ數百
里外ノ參宮者土産ノ爲メ買フ者夥シト云フ、主人濱田種助氏夙ニ義俠ヲ以テ稱セラル、此家ニ
シテ此人アル、赤福ハ名四方ニ噪ク故ナキニアラス

▲松島館

ハ又參宮ホテルト稱ス、三階ノ大旅館ナリ其名ハ瑞木(本館ニ一ノ瑞木ヲ有
ス)ト俱ニ、盛名遠近ニ馳ス、而カモ懇篤ヲ以テ來客ヲ待ツカ故ニ未タ足、神都ヲ踏マサル輩
ト雖モ已ニ其館名ヲ耳ニシ旅客群集、雲ノ如シト云フ

▲戸田屋

ハ料理、旅館ヲ兼業シ客室ノ高尚優美ナルト名什珍器ニ富ムヲ以テ稱セラ
ル、總テ虚飾ヲ競ヒ妄リニ世ニ求ムル流儀ニアラズ其確實ナルコトハ既ニ定評アリ

▲與可樓

與可樓ハ又中岡樓ト呼フ、料理ハ勿論得意トスル所ナレトモ旅館ヲ兼業ト
ス、宴席、高潔ニシテ卑猥ニ流レズ、最モ趣味アリ或人ハ神都ニ於ケル平民的俱樂部トシテ適
當ナルモノト評セシハ極メテ適切ナリ

▲村田寫眞舖

ハ創業日尙淺キニモ拘ハラズ、特ニ著ルシク世上ノ注目ヲ引クニ
至リシハ、技術ノ大ニ他ノ企及シ能ハサルニ由ルベシ、聞ク所ニ由レバ『大ニ業務上ヲ改善シ
便宜ニ撮寫シ得ル方法ヲ實行中ナリ』ト將來ノ繁榮期シテ俟ツベシ

▲高千穂館

ハ通稱北村屋ニテ外宮前ニ在リ、信切ト低廉トヲ以テ普ク遠近ノ評判
ヲ受ケタリ、高千穂ノ名ハ大帝國軍艦中最モ雄名ヲ轟シタルモノナリ、全家カ取テ以テ館名ト
セシモノ深ク期スル所アレハナラン、舊テ其名ヲ辱シムル處ナカラシテ望ムノミ

▲島田長兵衛

氏ハ神都ノ豪商ナリ山田銀行其他重要ナル地位ニ立ツ、氏ノ名ヲ
聽ケバ必ズ確實ナルモノト認メラル、ニ至ル、信用ノ在ル處亦知ル可シ、曾テ洋服店ヲ開キ斬
新意匠ト良工トヲ雇用シ専ラ世人ノ需用ニ應スト云フ

▲敬神教會

ハ讚テ其名ノ如ク敬神ノ大義ニ基キ發企シタルモノニシテ神都ニ於ケ
ル最モ必要ナルモノト信ズ、宜哉盛大ナルコトヤ

▲平松洋服店

ハ今日ノ洋服界ハ日ニ斬新ヲ競ヒテ己マサルモノアリ、平松洋服店ハ專ラ此点ニ注意シ、博ク内外ノ當業者ニ氣脈ヲ通シ決シテ時機ヲ失ハザル方針ナリトノ由、其機轉ヨリ觀レバ其盛大ナルハ至當ナルノミ

▲三日市大夫

神都ニ於ケル御師ハ其數多シ、然レトモ神都ニ深キ縁故ヲ有シタルモノハ獨リ三日市ヲ以テ第一位ニ置クベシ、故ニ外面ヨリ察スレバ或ハ華美ヲ示サルカ故ニ種々臆測スルモノアレトモ、其華美ナラザル所ニ却テ奥床シキ所アルナリ

▲(四)運送店

ハ有力ナル貨主ノ團體ナレバ隨テ諸貨物ニ對シテモ確實ヲ旨トシ業務一切總テ精確迅速ナリトノ評判ニテ取引上非常ニ繁忙ヲ加ヒツハアリ

▲村井吳服商

ハ神都吳服商中ノ優等ナルモノナリ、加之品質ヲ精撰シテ格別ニ低廉ニ販賣スルヲ以テ、顧客日ヲ追フテ倍加シ、店頭常ニ雜沓ヲ極ムト云フ

▲佐野砂糖店

ハ砂糖卸小賣商中ノ領袖ナリ其勉強店ノ名ハ世上ニ洽ク傳播スル所ナリ良品ヲ低價ニ販賣スルト云フ誰レカ來テ買ハサル者アラン繁昌ヲ來ス自然ノミ

▲黒田九兵衛

氏ハ有名ナル石商ナリ、詳ニ廣告文中ニアルカ如ク神都トノ關係ハ至テ舊シ、其技ノ非凡ナルヲ以テ注文ノ夥シキ恰モ織ルカ如シト云フ

▲すし久

ハ五十鈴川ノ沿岸ニ好地位ヲ占メ風景ノ割烹ノ快味ト相對シテ殆ンド俗界ニアラザルノ想アラシム、加之貴顯紳商屢々駕ヲ任ケラル、カ故ニ、自ラ閑雅流暢ニシテ快活ノ所アリ、或ル粹士ハすし久ニアラザレバ娛樂ノ價值ナシト謂ハレタリ、適評々々

▲上野五兵衛

氏ハ亞麻漁網糸一手販賣店ナリ本縣内ハ海産ニ富ムガ故ニ漁獵上大ニ販路アリト謂フ、氏ノ熱心ナル盡力ナレバ販路ノ擴張斷シテ保証スル所ナリ

▲三好熊七

氏ハ彩霞園ト稱シ神都菓子商中ノ白眉ナリ加之美術的意匠ヲ以テ名菓ヲ製造シタルニ忽チ江湖ノ喝采ヲ博シ内外人ノ賞味スル処トナル

▲尊皇教會

ハ全國敬神家ノ團體ニテ會員相共ニ便利ヲ謀リ各旅館互ニ氣脈ヲ通シテ宿泊ハ勿論其他一切ヲ處辨スル主意ナレバ參宮者ノ便益タルコト必ズ大ナルベシ

▲加藤周旋舎

ハ世間種々ナル名稱ヲ借テ世人ヲ欺ク輩アルヲ慨キ率先シテ確實ニ彼我ノ間ニ立テ懇切ヲ盡シテ諸事ヲ取扱フ趣意ニ外ナラザレバ兎ニモ角ニモ其便利ハ喋々ヲ待タズシテ明白ナルベシ

▲大橋館

ハ旅館中ニテ内宮參拜者ノ爲メニハ最モ便利ナル處トス、其注意取扱悉ク篤到ナレバ關東與羽其他諸國ヨリ宿泊スル者常ニ絶間ナシト謂フ

▲對岳樓

ハ神部中最モ高燥ナル其地位ヲトシテ新築シタル上ニ全景ヲ雙眸中ニ收メ只ニ觀望ニ當ムノミナラズ月ニ花ニ雪ニ適シ客室風流清洒ナレバ清遊ス可シ

▲渡邊正輝

氏ハ當地敬神家屈指ナリ其盡力スル所少ナカラズ以テ氏カ平生ヲ推知ス可シ

▲大安旅館

ハ特ニ懇篤丁寧ヲ基トシ優遇到ラザル所ナキガ故ニ世上ノ信用モ亦タ日ニ益ス多キヲ加フ

▲橋村總八

氏ハ油商ニシテ實直ナリ今ヤ擴張ノ方法ヲ研究中ニテ不日大ニ振起スル處アリトノコトナリ

▲濱萩鯨洲

世人ハ氏ヲ以テ普通印刻家ニ視スレ共其性質卓犖ニシテ他ノ惟重スル所トナル又タ以テ一種ノ人物ト謂フ可シ

▲花菱館

ハ至極勉強ナル旅館ニテ評判最モ宜シカノ宿引ヲ出シ車夫ト結ビテ安リニフリ旅客ヲ誘導スルデモ旅舎トハ同日ノ比ニアラズ

▲松本松露園

ハ御神樂藝、きざらき製造舗ヲ以テ世上ニ知ラル、加之製菓ニ丹練ナルガ故ニ其甘味特得ナリトテ近來著シク進歩ノ狀見ユ、尙安全消火器ハ一名ヲ坐敷ボンブ

ト云フ位ニテ各多人數ヲ使用スル者ハ勿論、各家トモニ必ず備フル時ハ防火上大ニ少ナカラヌ便利アルベシ

▲福島みさき大夫

ハ九州大夫總本部ニシテ、大夫中ノ古キ家格ナリ神宮御鎮座以來奉仕セル神職ナリトテ、九州地方ニ於ケル人望ハ隆々タルモノナリ

▲竹内齒科醫

ハ當今齒科醫中ノ最モ斬新ナル器械ヲ利用シテ療治ニ從事スルモノナリ、而カモ大字然タル風ヲ示サズ、率直ナレバ地方人等ニハ頗ル氣受ヨキコト勿論ナリト云フ

▲村田商店

ハ漆器荒物並表商中最モ老舗ナリ而カモ舊來ノ資産家ナレバ其取引モ亦タ確實ナルコト保証スルマデモナシ而シテ其平素ノ盛大如何ハ已ニ世間ノ評判ニ上リテ明白ナリ此レ實業家タル所以ニシテ眞ニ老舗タル面目ヲ備フルモノト謂フベシ

▲片岡善兵衛

氏ハ物産漆器商ヲ以テ名アリ倍テ演劇衣裳ノ業ヲ營ミ近年家聲大ニ揚リ勉強店ノ譽高シ



● 豫 告

神の宮居第一號發行セシニ大方諸君ヨリ非常ニ御喝采ヲ博シ殆ント發行前ヨリ御注文夥シキハ全ク諸君カ愛顧ノ厚キニ由ル儀ト一同感銘致居候然ルニ準備モ行届カズ編輯其宜シキヲ得ズ候段汗顔ニ堪ヘサル次第ト窃ニ信シ居候第二號ハ不日直ニ發行ニ着手致候殊ニ内外ニ關スル記事雜記講話等ハ勿論名勝舊跡ハ必ズ細羅シテ毫モ遺漏ナカラシメ尙有名ナル磯部百鱗翁ハ特ニ本社ノ爲メニ挿畫ノ揮毫ヲ快諾セラレ本紙表紙ハ則チ翁ノ注意ニテ兩宮ノ舊跡千枝杉百代ノ松ヲ畫カレタルモノナリ此上本社ハ大ニ聲價ヲ添フルヤ必セリ、加之神都美人ノ風采ヲ掲ケテ紹介スルノ計畫ニ付層一層ノ御高需アランコトヲ切望仕候本社員一同謹テ告白ス



吳服

洋
服



島
長
本
店

島
田
長
兵
衛

石
漢
無
窮

東京市丸の内區丸の内三丁目

豫告

神の宮居第一號發行セシニ大方諸君ヨリ非常ニ御喝采ヲ博シ殆ント發行前ヨリ御注文夥シキハ全ク諸君カ愛顧ノ厚キニ由ル儀ト一同感銘致居候然ルニ準備モ行届カズ編纂其宜シキヲ得ズ候段汗顔ニ堪ヘサル次第ト窃ニ信シ居候第二號ハ不日直ニ發行ニ着手致候殊ニ内外ニ宮ニ關スル記事雜記講話等ハ勿論名勝舊跡ハ必ズ網羅シテ毫モ遺漏ナカラシメ尙有名ナル磯部百鱗翁ハ特ニ本社ノ爲メニ挿畫ノ揮毫ヲ快諾セラレ本紙表紙ハ則チ翁ノ注意ニテ兩宮ノ舊跡千枝杉百代ノ松ヲ畫カレタルモノナリ此上本社ハ大ニ聲價ヲ添フルヤ必セリ、加之神都美人ノ風采ヲ掲ケテ紹介スルノ計畫ニ付一層ノ御高需アランコトヲ切望仕候本社員一同謹テ告白ス



伊勢宇治山田

九州大夫

總本部

福島孝紀大夫



物産漆器
荒物壘表

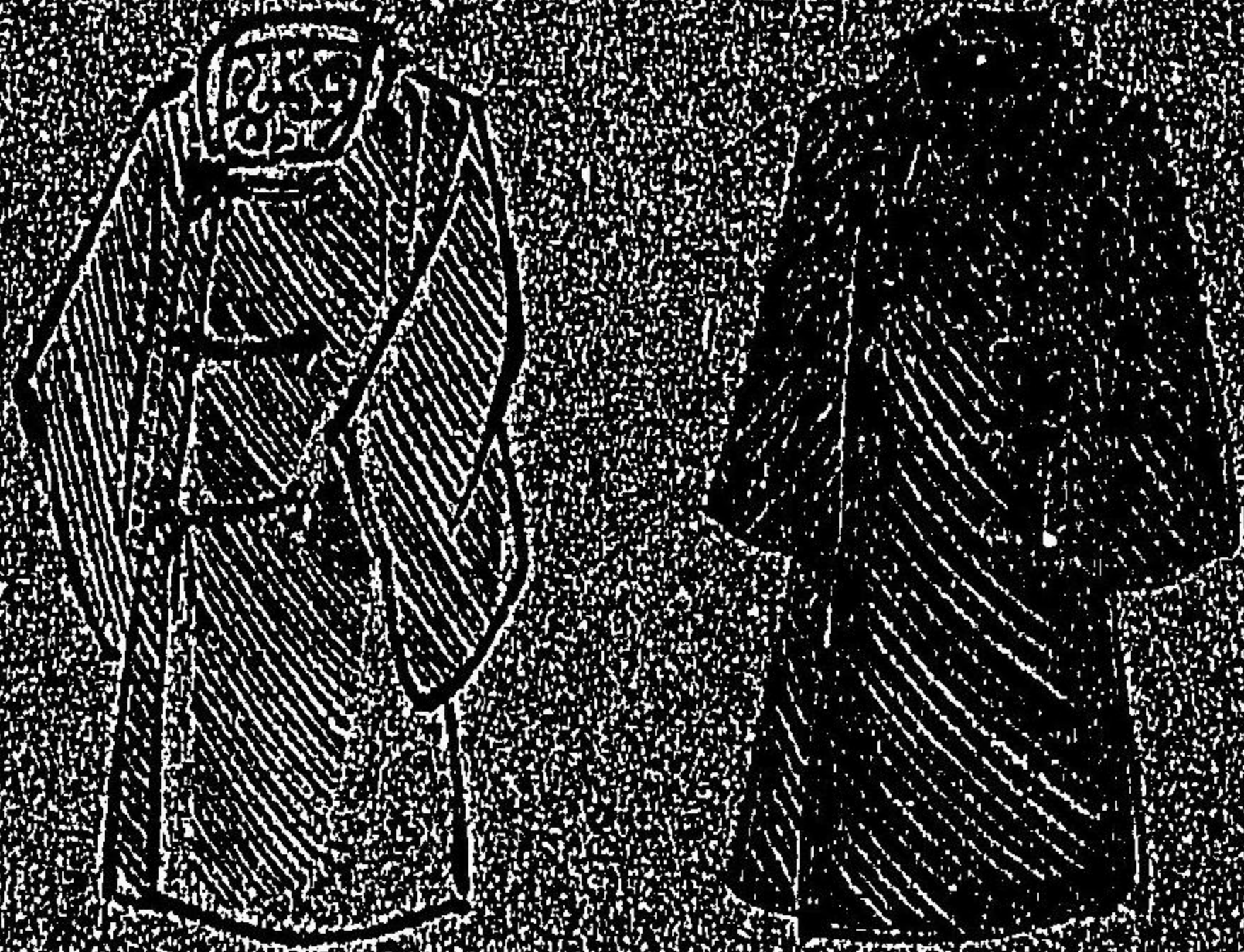
問屋

仙
村田仙翁門

伊勢山田河崎



洋服進出廣告



● 本館は米國（三ツツ）の最新式の洋服を輸入し、
 伊勢守治山田大世古所
 平松洋服店

御料理兼
 高等旅館

貴顯紳士の宿泊に適し
 山田筋向兩停車場に接
 近す尚神宮參拜に便利
 あり

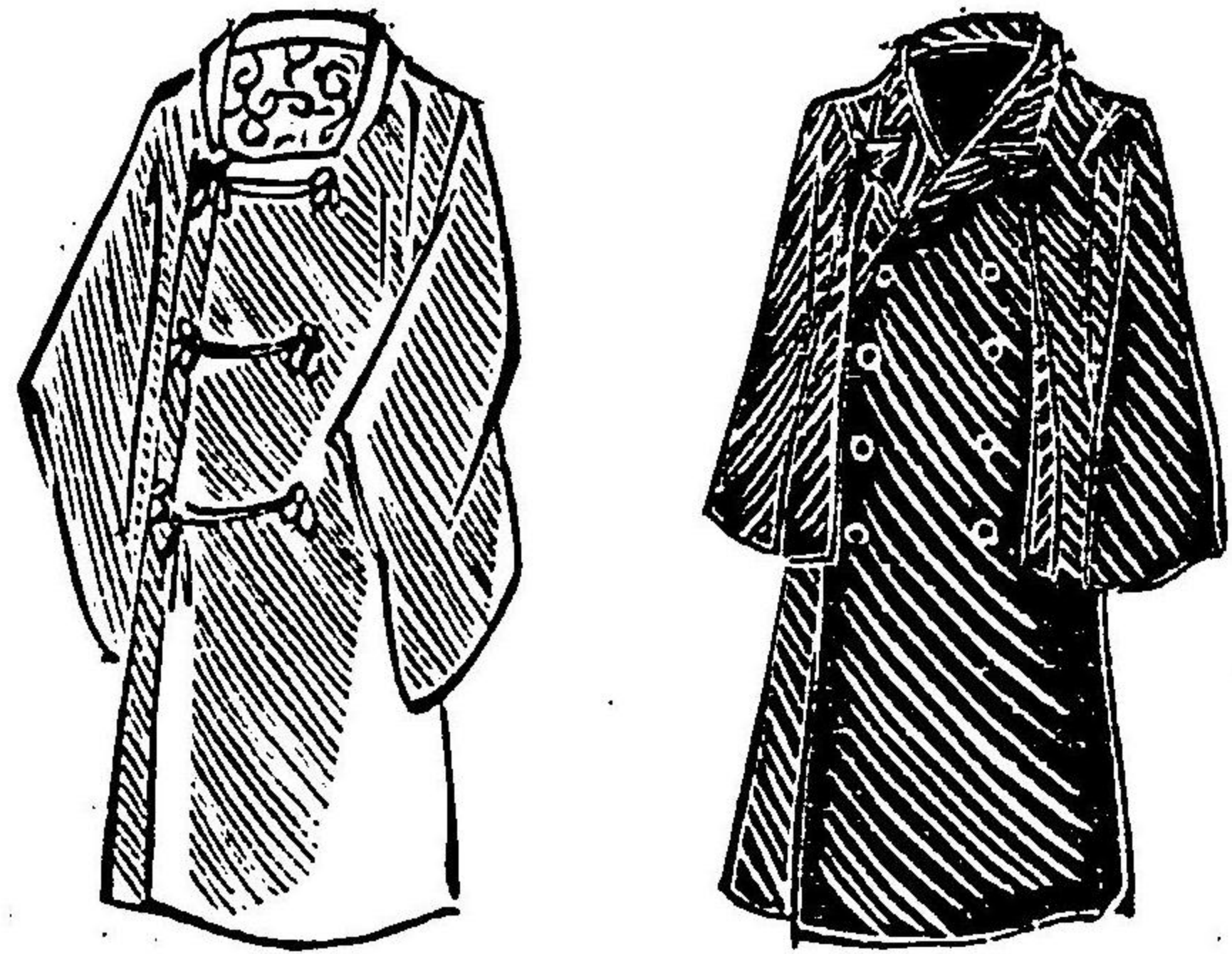
客席は善美にして器
 具は純潔を極め料理
 は精撰よして至て優
 美なり

産田屋

伊勢守治山田大世古所



洋服調進廣告



●地質は高尚優美にして堅牢
を撰たる新品殊に新奇形の
流行物澤山荷着あれば陸續
御注文可被下候

伊勢宇治山田八日市場

第四中學
校御用 平松洋服店

●裁縫は米國(ニウヨーク)パ
トリック會社月刊の新圖に
依り斬新の好形を比撰し職
工は精巧熟練の者を雇聘し
あり

- ◎ 待遇鄭重
- ◎ 料理新鮮
- ◎ 客室瀟洒
- ◎ 價格低廉

伊勢山田八日市場町

御料理

御旅館

興可樓

中岡助三郎

- ◎ 宴會必適
- ◎ 鐵道五分
- ◎ 神宮近接
- ◎ 宿泊便利



此進物高由
吳根切子
癸亥作

和井吳根切

山田曾根可

瀛車積
貨物
取扱



伊勢山田驛
丸川運送合資會社
全筋向橋驛
支店

會長子爵高丘禮季閣下

大々神樂會員募集

評議員 子爵東坊城德長殿
 評議員 從二位清岡長延殿
 評議員 子爵六角玄通殿
 評議員 子爵丹野西光善殿
 評議員 子爵豐岡圭資殿

贊助員 子爵高野橋隆董殿
 贊助員 子爵高野橋宗在殿
 贊助員 子爵梅小路基定殿
 贊助員 子爵藤谷基哲殿
 贊助員 子爵久藤世通殿
 贊助員 子爵藤谷世通殿
 贊助員 子爵藤谷世通殿
 贊助員 子爵藤谷世通殿

之本會規則及入會手續等御入用

伊勢國神都中之町

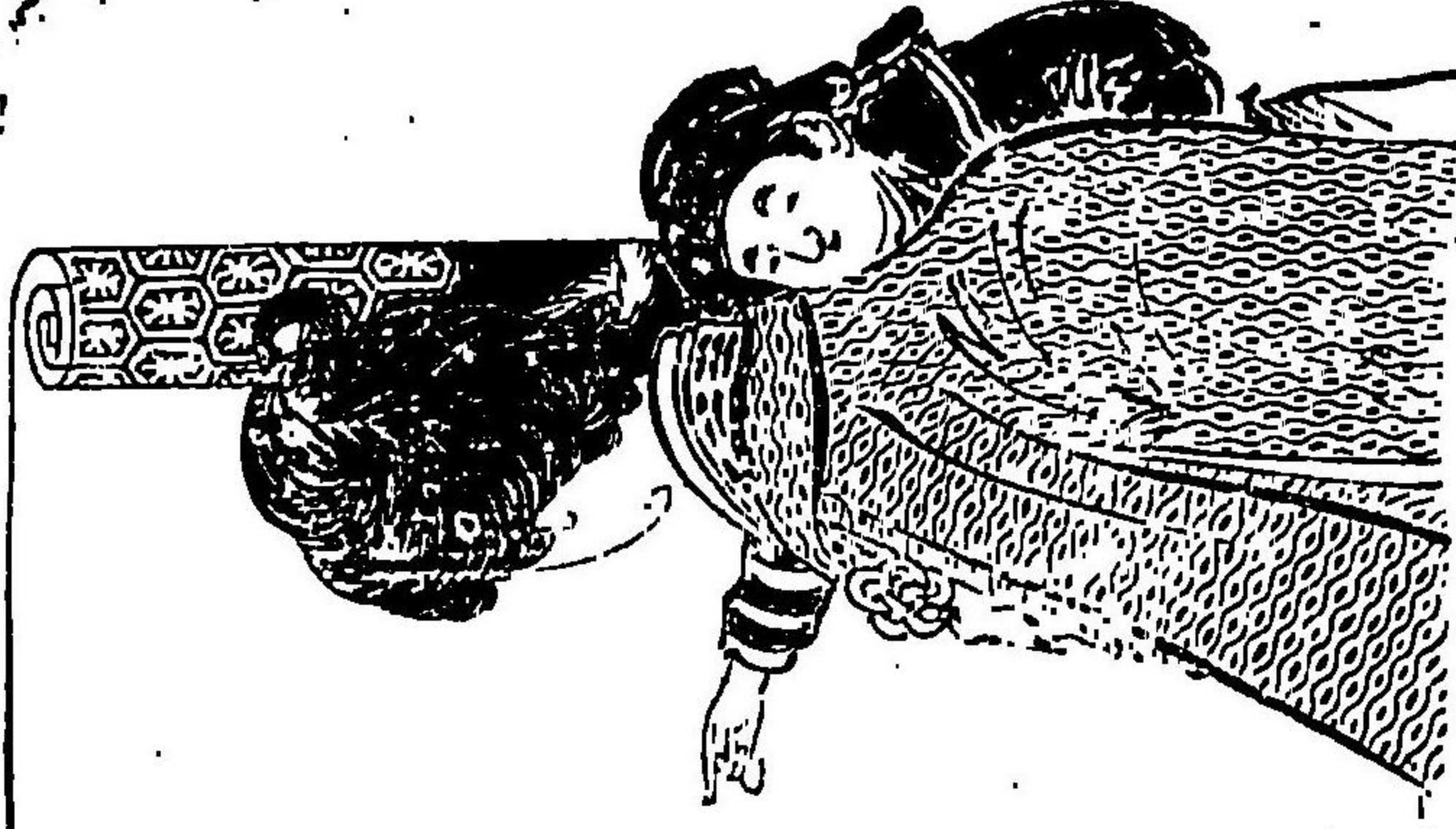
敬神々樂教會本部

與羽關其東他諸國

山田停車場より參丁

參宿所

三日月太次郎





齒科
治療

午前八時ヨリ 岡本町本院ニテ治療
全十一時迄

午後一時ヨリ 大世古町分院ニテ治療
全五時マデ

伊勢山田岡本町

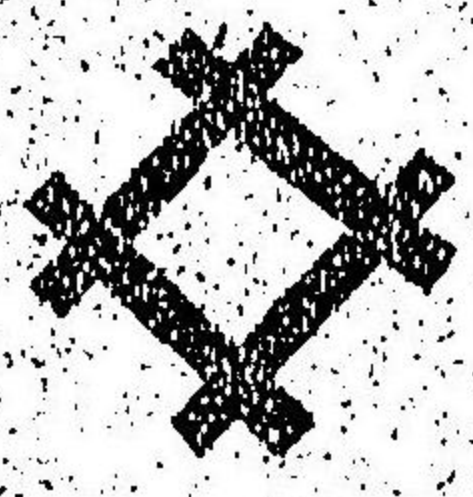
武内齒科醫院

物産漆器

並ニ雜貨商

演劇資衣裝

商 伊勢山田岡本町



片岡善兵衛

片岡衣裝部

標



關東 奧羽 諸國

旅 館

大橋 館

伊勢國內宮宇治橋前

弊館ハ内宮ニ接近シ御參拜ニ
ハ最モ便ナリ

諸國石材美術製造廣告

黒田九兵衛世業石工十一代祖其自和
泉日根郡黒田村來住我山田故稱山田
氏號和泉屋按史乘仁帝皇后日葉酢媛
命薨時大明命後裔建異利根命作石棺
獻之仍陽姓作大連公督諸國之石作部
其子孫世守其職其後石棺之制衰更作
諸器物世作石器者以和泉日根郡石工
爲最黒田氏蓋其流也今主九兵衛爲人
有氣概勵精其業有名工伴大御宮石垣
也運轉所謂初種石頗有力官特賜金賞
之又作志州安乘黃島兩燈臺京都本願
寺鐘樓其礎等尤妙刻碑文近日建碑之
舉大行書者每憾乏其工而靡谷一六日
下郎鳴鶴三翁詳語人曰可刻吾舟者東
京有廣群鶴伊勢有石九而已其精巧可
知嗚呼如石九者可謂光其祖者矣乃書
其梗概以告江湖者山田石工之子也
明治二十二年四月

弊店從從來石材製造營業能存候
處諸君の御愛顧を蒙り日増盛大
に趣候段奉賜謝候尚今後一層勉
強仕石材を撰ひ磨鑄もも技術盡
力可仕候間石材ノ良否技術の巧
拙其精査の上多少に把りし御
用被仰付度且紀念碑用石材相授
國根府用石及仙臺石等其他總て
山元より直取引致し京坂金城地
方迄も弊店より販賣致居候儀
付精々廉價に調進可致候間何卒
御用命御購求有之度奉希候儀白
伊勢山田河崎町石九車
黒田九兵衛

春は花

あきは

しかれ音

冬はゆき

夏はますし久

かよふ

川かぜ

料理兼旅館

す
久

神宮祭主宮御用

伊勢山田内宮側

明治二年全六年全十六年
皇太后陛下
御登拜之節
神宮御登拜之節御用子蒙り尙明治十八年

天
皇
陛
下
神宮御登拜之節御用子蒙り尙明治十八年



諸機械製造業

就中木挽機械ハ當社専門營業ナル

故特有ノ技術ヲ以テ製作ス

●物品ハ多少ヲ論セス御注文ヲ乞フ

●價額ハ特別勉強廉價

●品質ハ精功無比完全

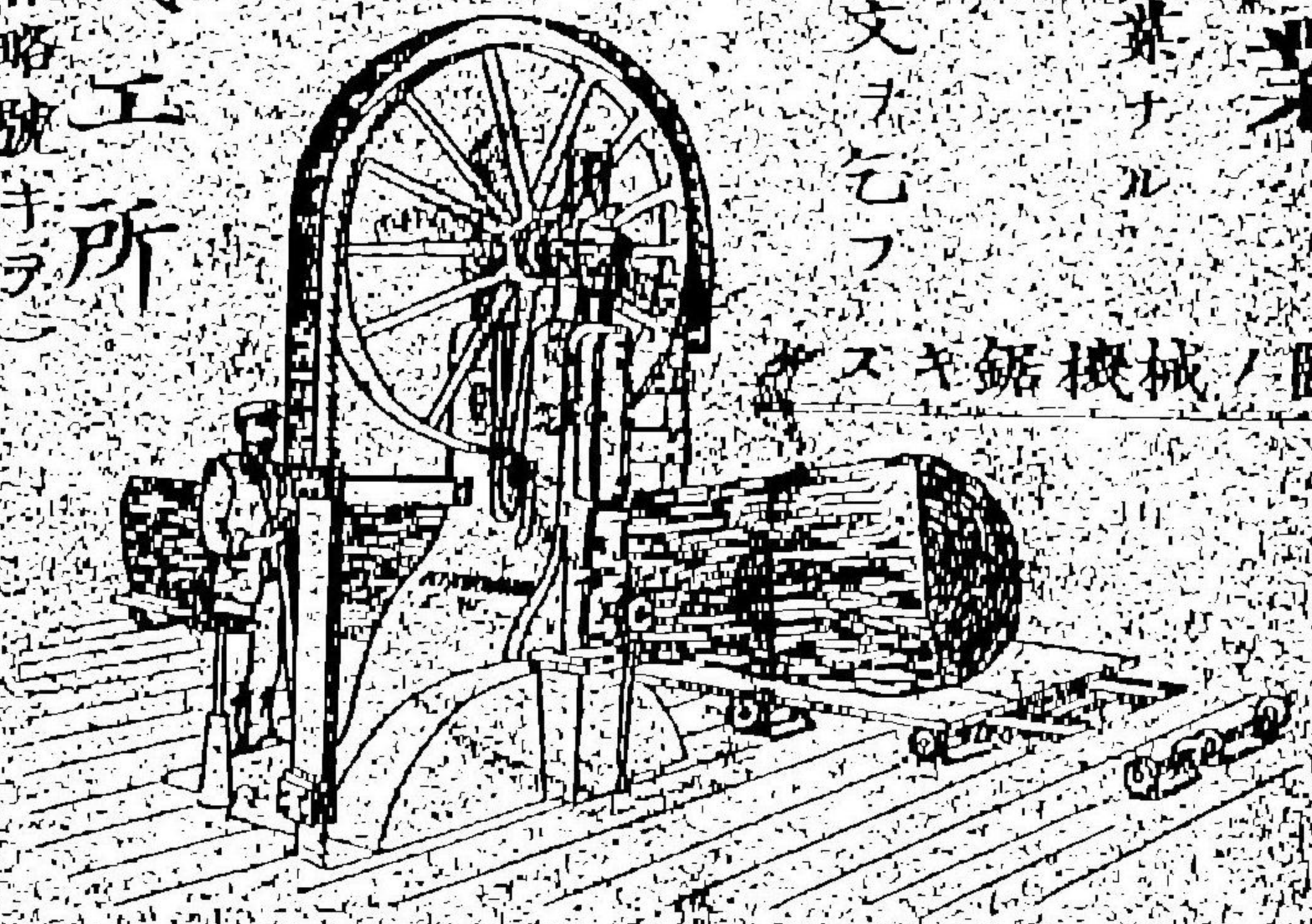
●委細ハ御照會アリ返信ス

伊勢國度會郡大湊町



合名 菊川鐵工所

(電報略號キテ)



スギ鋸機械ノ圖

KIKUGAWA IRON WORKS & CO.

廣告

倉庫業

當倉庫部發行之藏荷証券ニ對シテハ
銀行休日ト雖モ貸金ヲ成ス

委托賣買問屋

確實ヲ旨トシテ精々勉強ス

山田河崎町

商榷宗事村松益次郎

京都生命保險會社
山田代理店

良改紀世十二

真寫



本館ノ特色ハ夜間ノ撮影ニ精巧
去極ムルニ在リ

本館ノ特色ハ引伸自在ニテ最モ
鮮明ナルニ在リ

伊勢山田新道

寫真師 村雲館

本館ノ特色ハ專ラ白金紙素面紙

復寫丹練ナルニ在リ

本館ノ特色ハ價額低廉ニ殊ニ撮

影懇篤ナルニ在リ

亞麻漁網
巴里博覽會名譽大賞受領

亞麻絲製網ハ漁網中優等ノ品位ヲ
有ス

亞麻絲製網ハ漁獲增收ノ特効ヲ有
ス

亞麻絲製網ハ牽引力頗ル強大ナリ

北海道札幌北七條

製造所 北海道製麻株式會社

三重縣一手特約販賣店

伊勢山田川崎町

亞麻絲製網ハ廢敗ノ憂ヒ極メテ少
シ

亞麻絲製網ハ撥水ニ堪ユル事尤モ
長シ

諸君ノ便宜ノ爲メ製網ノ御注文ニ
應ス

名菓 さくらんぼ

調進本舖

滋養菓 園の露

特約販賣

伊勢山田尾上町

二三好彩霞園

○尊皇教會ノ特得

抑モ大廟へ参拜スル者ノ宿泊スル浴道
旅第ハ互ニ氣脈ヲ通シテ莫大ノ宿泊料
ヲ費ルカ如キ弊害ヲ除キテ專ラ全國敬
神家ノ結合ヲ鞏固ナラシメ普ク會員テ
シテ相共ニ敬神ノ大義ヲ發揮セシメ大
ニ参拜者ノ便益ヲ得セシム○會員及ヒ
全家人参拜ノ時ニハ之ヲ優待シ無料宿
泊セシメ其會員タル者カ本部へ滞在ス
ル時ハ其費用ナキノミナラズ兩宮・二
見・朝熊・農業館・御古館・拜覽等不殘案
内ノ土産物ノ買入等ニ至ルマデ注意シ
十分御満足ナ與テ可テ目的トス

伊勢國山田町中町(停車場ヨリ二丁) 尊皇教會本部

周旋業開創廣告

- 土屋家屋賣買借家
- 會社商家諸職雇人口入
- 諸物品依頼販賣
- 訴訟鑑定登記事件
- 其他萬般ノ要件

右開業仕リ如何ナル難件ナリトモ迅速
懇篤ニ取扱可致候間唯御申込テ乞フ

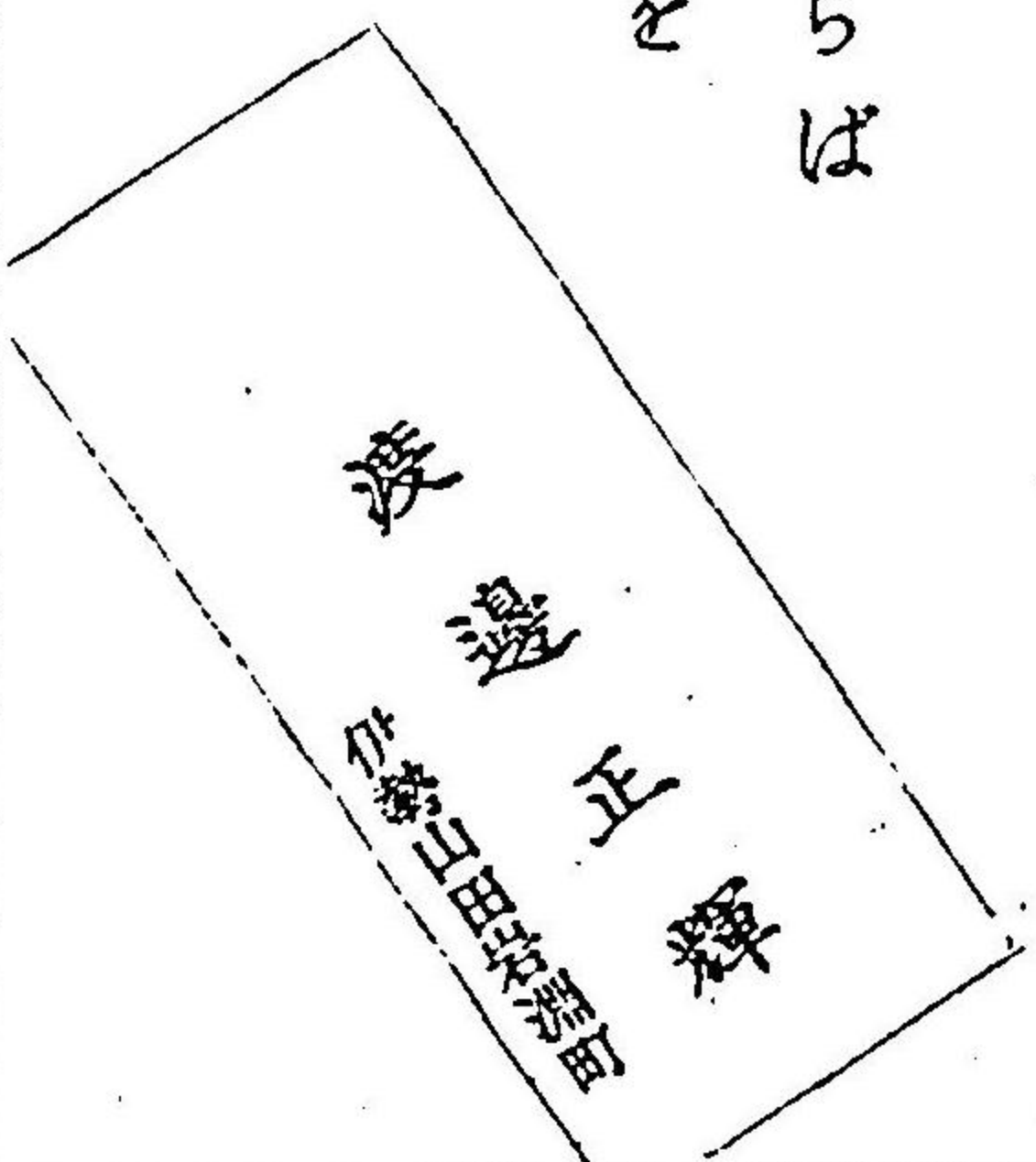
明治卅四年二月

山田吹上町

信榮舍主任加藤幸助

御一報次第當方ヨリ舍員派遣御用命
ヲ辨スベク候

御暇あらば
御遊來を
乞ふ



旅館

伊勢山田古市

大 安

弊店は専ラ懇篤丁寧を主とし御賄料は御客人の需めに
應じ至極勉強可仕候間何卒御入宿の上御愛顧御引立の
程偏に奉希上候

拙舖儀數年來大方諸君ノ御厚庇ヲ忝シ
印板彫刻ノ業ニ從事罷在候處日益繁榮
ヲ致シ遠近ヨリ陸續御需求引モ切ラズ
不本意ニモ折角ノ御注文ヲ謝絶スルノ
嫌ナキニアラザリシモ今般大ニ規模ヲ
擴メ必ズ御用向相辨可申候間永當々々
御愛顧アラントテ希上候

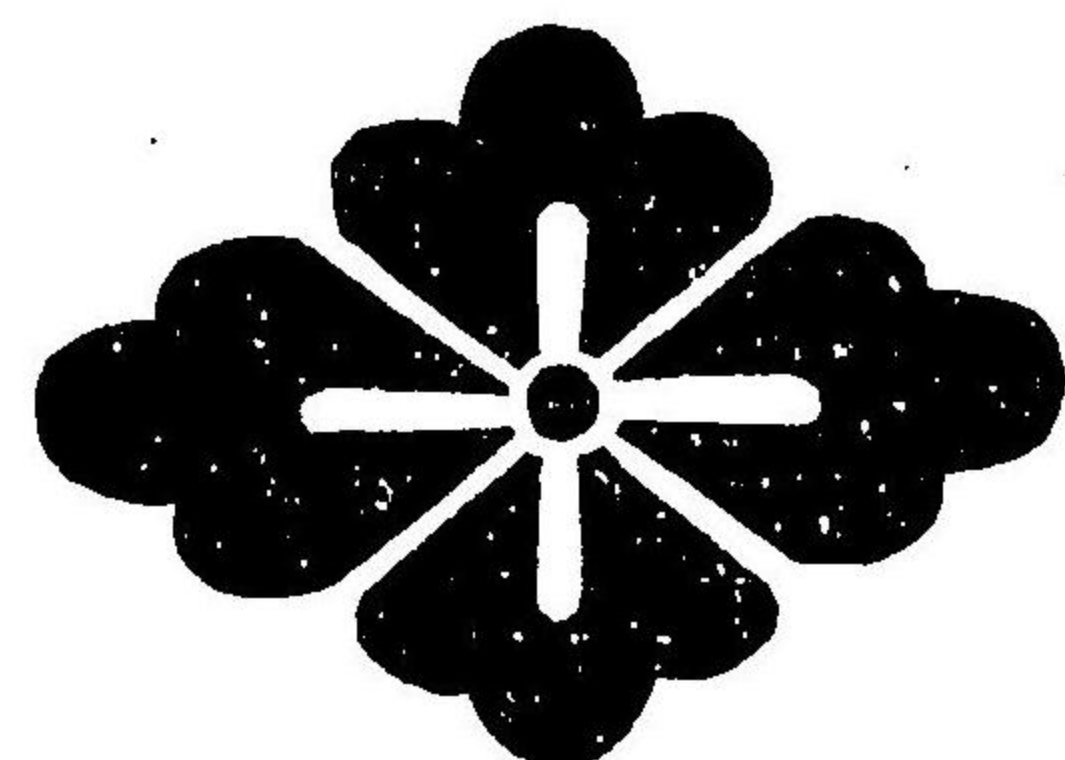
板版彫刻
及印肉師
濱荻鯨洲敬白

伊勢宇治山田船江町

油 總 事

油商橋村總八

伊勢



山田

神宮奉齋會參宮組參宿所

旅館

花菱館

伊勢教會々員參宿所

右御來泊之方ハ參宮鐵道筋向
橋驛ニテ下車

菓名

きりぎりぎ

伊勢山田大世古町

松本松霞園

松本源次郎

御神樂羹

海軍省御用品

專賣特許

安全消火器

一名座敷ポンプ

中央商會

三重代理店

松本商會

御旅館

伊勢宇治山田町大字岡本町

山田驛停車場ヨリ二丁半

榊原大夫事

參宮館

本館ハ南ハ神路山西ハ高倉山南面ハ豊宮
崎ヲ眺メ文庫御屋根櫻ヲ觀ル風景アル空
氣流通最モ宜敷御參宮ニ至極便利ノ處ナ
リ四方諸君陸續御參宿アランコトヲ希望ス
尙御參拜ノ節ハ御案内可仕候
追テ當地ニ宿引人力馬車夫等種々惡口
申者有之候トモ一切御取上ナク御尋被
下候

御旅館 角屋

伊勢二見浦

室内最モ清潔ニシテ間數多ク
紳士紳商諸君ノ宴會ハ勿論小
數ノ御休息ニモ御便利ヲ謀リ
總テ丁寧ト親切ヲ專一トス御
來遊ヲ希フモノハ

亭主

喜多六良右衛門

拜告



砂糖 卸小賣商

伊勢山田一志町

佐野豹八郎

(電信略號サノ)

本店儀精良ナル品ヲ選ミ御愛
顧ニ酬ヒ價額モ他ヨリ格別勉
強致シ候間御引立之程伏シテ
奉希上候

美人寫眞

(處女、藝娼、
妓ニ拘ハラ
ス一切)

本社『神の宮居』第二號ニ 神都

美人の面影ヲ博ク世上へ紹

介セント欲スルニ付御承知ノ諸君ハ來

ル六月十五日限り寫眞

ヲ住所姓名ヲ御認メノ上御送テ乞フ篤

ト審査ノ上採否ヲ決スベシ

山田大世古町

神の宮居 發行所 志勢通信社

二見海浴

二見館 ハ海濱中
ノ好位置ヲ占メ絶
倫ノ風景ニ富ミ海水
浴場トシテハ最モ適地
ナリ

二見館 ハ空氣流通能ク且客
間數多アレバ居心地能ク滞在
ニ恰好ス

二見館 ハ客室器具等總テ清潔ヲ旨
トシ且賓客ノ取扱モ極メテ丁寧親切
ニシテ些ノ遺憾ナシ

二見館 ハ宿泊料ハ勤メテ廉ニシテ剝取主
義ハ誓テセザルベシ

伊勢二見浦

清渚亭事

二見館主人敬白

株式會社 度會商工銀行

(伊勢山田河崎町)

同 南島支店
同 神社出張所
同 筋向橋出張所
定期預金 六ヶ月以上 八朱

當座預金

百圓ニ付日歩

壹錢七厘

小當座預金

百圓ニ付日歩

壹錢九厘

御料理ハ
新鮮ナル者
ヲ用ヒ精々御
安直ニ可致候間
賑々敷御來遊ヲ
仰ク

伊勢山田町字新町

東雲樓

旅館

本館ハ宇治山田ノ中央ニシテ南ハ
神路山西ハ高倉山豐宮崎文庫ニ春
ハ御屋根櫻ヲ觀ル佳景アリ殊ニ客
室内空氣流通最モ能ク兩宮御參拜
ニハ至極便利ニ御座候間四方ノ諸
君陸續御入宿ノ程伏テ懇願候也

伊勢山田岡本町
とうじや車 錦江館

廣告

一西洋家具
並ニ萬指物製造

伊勢山田八日市場町
商號山田椅子屋

諸官衙
諸會社
各學校

御用達 吉川齊吉

廣告

繁店販賣ノ商品ハ正札付ニテ
價頗ル非常ニ廉ナリ何卒倍舊
ノ御愛顧ヲ乞フ

伊勢山田大世古町
和洋商 高橋商店
小間物商



發行所

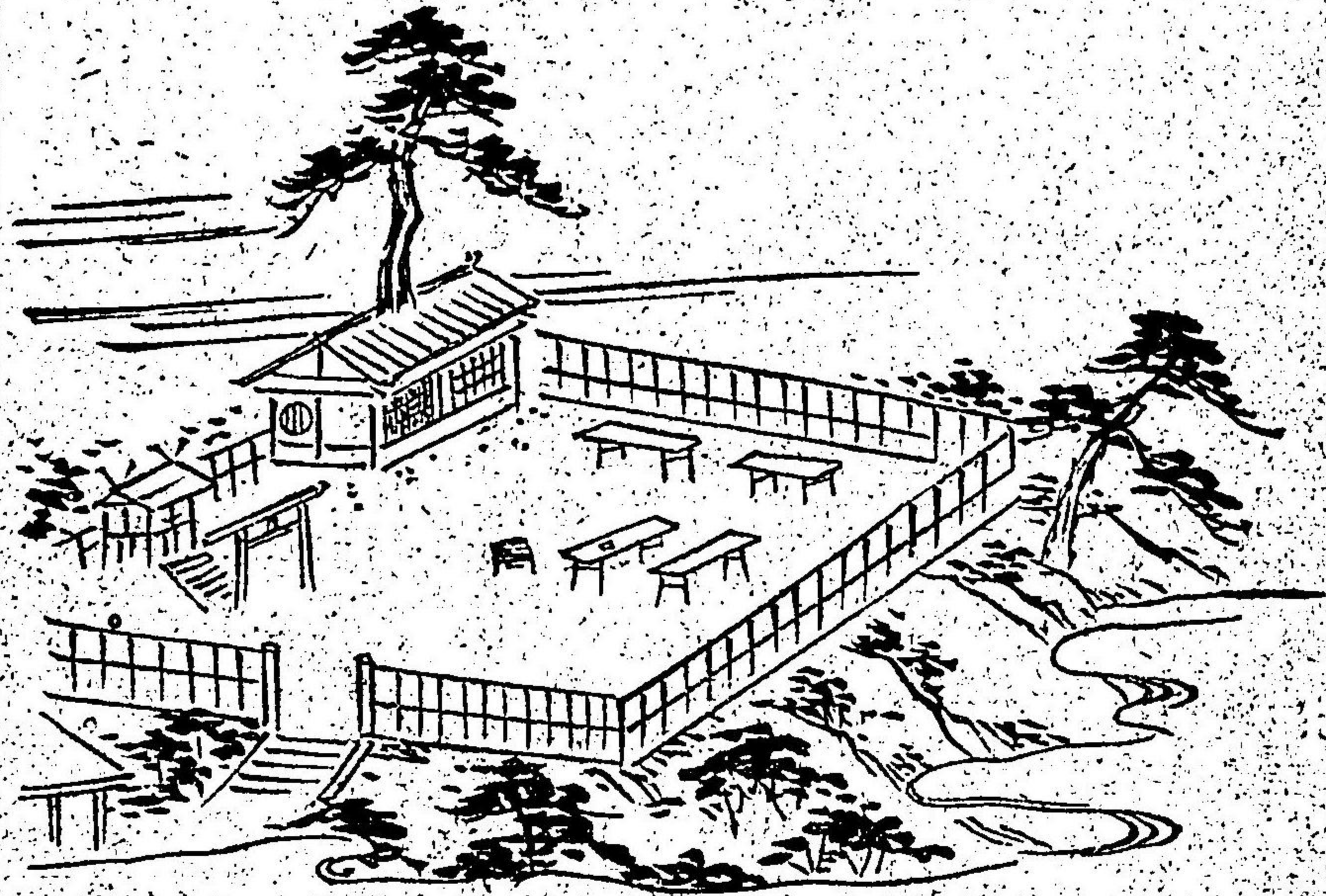
印刷所

印刷人

著者兼發行人

明治卅四年六月五日印刷
同年六月十二日發行

日和山園



日和山ハ、鳥羽港ノ西北隅ニアル丘陵ニシテ三河ノ伊良胡崎ト相對シ内海ノ口ヲ爲ス眺望最モ佳絶ナリ舟子常ニ此山ニ登リテ以テ天候ヲ相ス故ニ日和山ノ名アリ去ル明治廿四年八月、皇太子殿下ニ見浦行啓ノ歸途御登山ノ榮ヲ辱フシ其後モ貴顯方ノ御來遊數多ニシテ有名ノ地ナリ

日和山ハ、蒼志菅坂手等ノ大島ヲ始メ數千ノ小島眼前ニ散布シ伊勢灣ヲ隔テ、尾州ノ知多半島三河ノ伊良胡崎ヨリ晴天ノ日ニハ富士ハツ峰駒ヶ岳ノ諸峰ヲモ遙カニ望ムヲ得實ニ無比ノ絶景ナリ

日和山ハ、四季ノ眺メアリテ登山ノ路傍ニハ櫻樹數百株ヲ植付アルヨリ春季ニハ最モ登山者多ク夏季ハ避暑地トシテ適當ノ地ナリ

鳥羽港

日和山園主敬白

三河縣度會郡宇治山田町
大字大世古田片參番屋敷

内野 熊太郎

三重縣津市西栗寺町四拾貳番屋敷

人長 館貞治郎

三重縣津市五ノ内四番地

伊勢 新聞社

三重縣津市五ノ内四番地
大字大世古田片參番屋敷

志勢 通信社

(定價金拾錢)

明治卅四年六月五日印刷
同年六月十二日發行

著者兼發行人

三重縣度會郡宇治山田町
大字大世古町并參番屋敷

內野熊太郎

印刷人

三重縣津市西來寺町四拾貳番屋敷

人長館貞治郎

印刷所

三重縣津市丸之内四番地

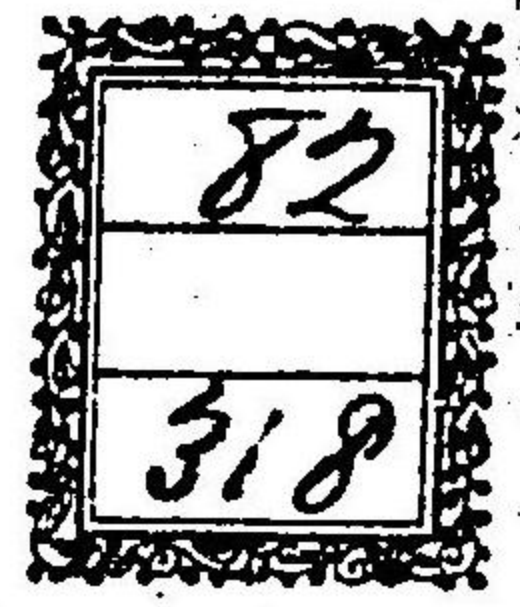
伊勢新聞社

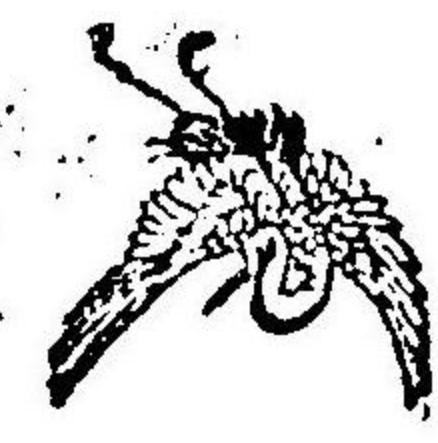
發行所

三重縣度會郡宇治山田町
大字大世古町并參番屋敷

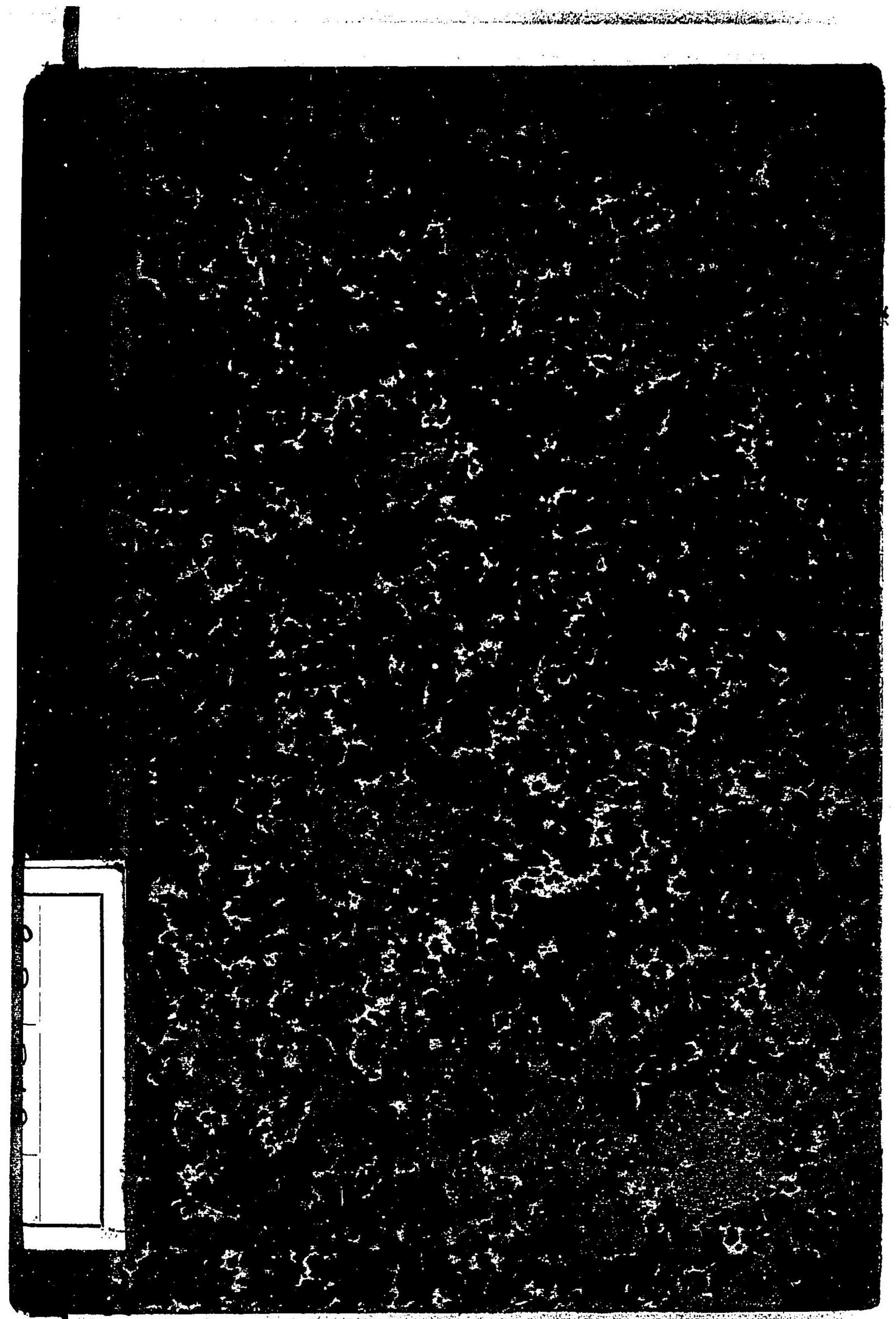
志勢通信社

(定價金拾錢)





82
318



82
318

013921-000-9

82-318

神の宮居 第1号

内野 熊太郎 / 刊

M34

ABB-0161



